

官報 號外

大正八年三月二十二日 土曜日

印刷局

第四十二回 衆議院議事速記録第二十七號

大正八年三月二十一日(金曜日)午後一時十三分開議

議事日程 第二十六號 大正八年三月二十一日

午後一時開議

第一 史蹟名勝天然紀念物保存法案(貴族院提出) 第二讀會

第二 和氣神社昇格ニ關スル建議案(小橋三衛君外八名提出)

第三 朝鮮及臺灣ノ產米増殖ニ關スル建議案(牧山耕藏君外十名提出)

第四 新聞紙法改正ニ關スル建議案(松田源治君外十二名提出)

第五 狩野川改修ニ關スル建議案(岩崎勳君外一名提出)

第六 農業政策ニ關スル建議案(赤間嘉之吉君提出)

第七 陸軍下士卒優遇ニ關スル建議案(高田稔平君提出)

第八 北海道拓殖完成ニ關スル建議案(寺田省歸君外二名提出)

第九 發電用水利權ノ法規制定ニ關スル建議案(石原正太郎君外一名提出)

第十 能代、五所川原間鐵道建設ニ關スル建議案(土藤卓爾君外四名提出)

第十一 延松鐵道速成ニ關スル建議案(長峰與一君外三名提出)

第十二 山口縣德山港ヲ特別輸出入港ト爲スノ建議案(渡邊祐策君提出)

第十三 圓山川改修ニ關スル建議案(齊藤珪次君外一名提出)

第十四 水產講習所内ニ淡水科特設ニ關スル建議案(西川太治郎君外五名提出)

第十五 水產業統一機關設置ニ關スル建議案(唐端清太郎君外二名提出)

第十六 水產銀行設立ニ關スル建議案(鶴澤宇八君外二名提出)

第十七 (特別報告第百五十四號)葉煙草耕作段別ニ對シ補償金交付ノ請願 (委員長報告)

第十八 (特別報告第百六十三號)航空事業國庫補助ノ請願 (委員長報告)

第十九 (特別報告第百六十四號)大任村ニ郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第二十 (特別報告第百六十五號)皆瀬郵便局ニ集配並電信事務開始ノ請願 (委員長報告)

第二十一 (特別報告第百六十六號)濱田郵便局ニ電信事務開始ノ請願 (委員長報告)

第二十二 (特別報告第百六十七號)枝幸村字音標ニ郵便局新設ノ請願 (委員長報告)

第二十三 (特別報告第百六十八號)吉城郡(配達スル小包郵便物遞送線路變更ノ請願 (委員長報告)

第二十四 (特別報告第百六十九號)坂上郵便局ト幸野郵便局ト間ニ遞送開始ノ請願 (委員長報告)

第二十五 (特別報告第百七十一號)茅沼ニ無集配郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第二十六 (特別報告第百七十二號)東國分郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (委員長報告)

第二十七 (特別報告第百七十三號)中和郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (委員長報告)

第二十八 (特別報告第百七十四號)大崎村字大崎ニ郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第二十九 (特別報告第百七十五號)東太良郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (委員長報告)

第三十 (特別報告第百七十六號)山崎郵便局ニ集配事務取扱開始ノ請願 (委員長報告)

第三十一 (特別報告第百七十七號)木下郵便局ニ特設電話設置ノ請願 (委員長報告)

第三十二 (特別報告第百七十八號)田平村ニ無集配郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第三十三 (特別報告第百七十九號)膝折村ニ郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第三十四 (特別報告第百八十五號)鶴川村ニ登記所設置ノ請願 (委員長報告)

第三十五 (特別報告第百八十六號)入舞村字清水ニ登記所設置ノ請願 (委員長報告)

第三十六 (特別報告第百八十七號)日野春村ニ登記所設置ノ請願 (委員長報告)

第三十七 (特別報告第百八十八號)喜連川町外二箇村ヲ宇都宮區裁判所管轄ニ變更ノ請願 (委員長報告)

第三十八 (特別報告第百八十九號)大野村大字黒野ニ登記所設置ノ請願 (委員長報告)

第三十九 (特別報告第百九十號)八束、川上、中和三村中ニ區裁判所出張所設置ノ請願 (委員長報告)

第四十 (特別報告第百九十一號)盲啞教育令發布ノ請願外一件 (委員長報告)

第四十一 (特別報告第百九十二號)公立盲啞學校設置ノ請願外十九件 (委員長報告)

第四十二 (特別報告第百九十三號)三陸沿岸鐵道敷設ノ請願外三件 (委員長報告)

第四十三 (特別報告第百九十四號)八戸、久慈間輕便鐵道延長ノ請願 (委員長報告)

第四十四 (特別報告第百九十五號)天鹽線速成ノ請願 (委員長報告)

第四十五 (特別報告第九十七號)弘前、田代
間輕便鐵道速成ノ請願(委員長報告)

第四十六 (特別報告第九十八號)天鹽線速
成ノ請願(委員長報告)

○議長(大岡育造君) 諸般ノ報告ガアリマス

(原田書記官朗讀)

一 今二十一日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ議
案ニ對シ承諾スルコトヲ議決シタル旨同院ヨリ通牒セ
受領セリ

大正七年勅令第三百七十三號(承諾ヲ求ムル件)
一 今二十一日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ議
案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

道路法案(政府提出)

時局ノ影響ニ因ル地方税制限擴張ニ關スル法律案
(政府提出)

私立學校用地免租ニ關スル法律案(政府提出)
耕地整理法中改正法律案(政府提出)

地租條例中改正法律案(本院提出)

一 昨二十日議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

本邦基礎工事ノ保護ニ關スル建議案

提出者 田中 隆三君 鈴木 錠藏君

小松島港改良修築ニ關スル建議案

提出者 原田佐之治君 泰 豐助君

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲
載ス)

一 去二十日辭任シタル常任委員左ノ如シ

第一部 選出豫算委員

第四部 選出豫算委員

第八部 選出豫算委員

一 去二十日常任委員補選ノ結果左ノ如シ

第一部 豫算委員 寺田 省歸君(渡邊陳平君補闕)

第四部 豫算委員 大石 五郎君(磯部尙君補闕)

第八部 豫算委員 今井 今助君(元田肇君補闕)

一 今二十一日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ

朝鮮輕便鐵道補助法案委員

委員長 小林 源藏君 理事 小泉策太郎君

土井 權大君

秋田寅之介君

北海道拓殖鐵道補助ニ關スル建議案委員

委員長 粕谷 義三君 理事 佐々木平次郎君

○議長(大岡育造君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、日程第一、
史蹟名勝天然紀念物保存法案 第二讀會ヲ開キマス—
前田米藏君

第一 史蹟名勝天然紀念物保存法案(貴族院
提出) 第二讀會(確定議)

○前田米藏君 本案ハ第三讀會ヲ省略シテ、委員長報
告ノ通り可決確定セラレシコトヲ希望致シマス

○議長(大岡育造君) 御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 御異議ガ無ケレバ二讀會ニ於テ
三讀會ヲ省略シテ、可決確定シタルコトヲ宣告致シマス

○岩崎勳君 議事日程ノ變更ニ關スル緊急動議ヲ提出
致シマス、即チ茲ニ第三號大正八年度歲入歳出豫算追加
案、特第一號大正八年度各特別會計歳入歳出豫算追加
案、追第三號豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ
要スル件ヲ一括議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求メ、且ツ其
審議ヲ進メラシムコトヲ求メマス

(「異議ナシ異議ナシ」ノ聲起ル)

○議長(大岡育造君) 日程變更ニ就テ御異議ハ無イト
認メマス、仍テ齊藤委員長ノ報告ヲ促シマス

(第三號)大正八年度歲入歳出總算豫算追加案
(特第一號)大正八年度各特別會計歳入歳出豫算
追加案

(追第二號)豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲ス
ヲ要スル件

(齊藤圭次君登壇)

(拍手スル者アリ)

○齊藤圭次君 茲ニ第三號大正八年度歲入歳出總豫
算追加案外二件ノ案件ニ對シマス、委員會ノ經過及結
果ヲ御報告申シマス、本案ハ一般會計經常部ニ關シマ
シテハ、內務、大藏、文部、逓信ノ各省ニ涉リマシテ、臨時部
ニ於テハ陸軍省、海軍省、農商務省ニ涉リマシテ、後ト
特別會計ニ於キマシテハ、大藏省、文部省、ソレカラ豫算外
國庫ノ負擔トナルヘキ契約ニ關スル件ハ、內務省、大藏省、
農商務省ノ所管ニ屬シマス、斯ク幾多ノ關係ヲ有テ居リ
マスルガ、其支出ノ合計等ニ就キマシテハ、茲ニ略シマシテ、
大體ニ於テ本案ハ必要缺クベカラザルモノトシテ、委員會
ニ於キマシテモ、議論ノ無カリシモノガ多ク、ノデアリマス、例
ヘバ大阪府ニ於ケル警察費ニ關スル國庫下渡金ノ割合ノ
増加ノ如キ、或ハ織物消費稅徵收事務ニ關スル補助ノ組
合交付金ノ如キ、又臨時軍事費、高等諸學校創設並ニ擴
張費支辨ノ爲メ公債ヲ發行スル爲メノ利子ノ如キ、費用

ノ如キ、或ハ軍人恩給法附則ノ改正ニ伴フ恩給増加ノ如
キ總テ餘リ質問モゴザイマセヌ、質問ノゴザイマシタモノハ、
神戸門司築港ニ關スル事、及鳥取縣外四縣ニ於ケル災害
土木費借入金ニ對スル利子補給ノ其金額ニ對スル質問、
及今回新二帝國開墾株式會社ナルモノガ設立セラル、ニ
付テ、食糧問題ノ解決ノ必要トシテ、政府ガ之ニ向テハ
朱ノ補給ヲ爲スト云フコトヲ提案ノモノニ就テハ、是ハ最モ
質問ノ多カリシモノデアリマス、質問ノ經過ノ大體ニ就テ申
シマスルニ、神戸門司兩港ニ對スル質問ノ如キハ、何レモ其
事業ノ洵ニ適當ニシテ必要ナルハ皆ナ認メマス、唯、將來ニ
於テ此事業ガ擴張若クハ完成ヲ告グルニ於テ、支障ナキヤ
否ヤヲ確メラレタノデアリマシテ、即チ將來ノ擴張ニ於テ、
今日ノ小規模デハ却テ妨ヲ爲シハシナイカ、或ハ又鐵道ト
ノ水陸連絡ニ於テ、其宜シキヲ得ザルモノアラザルヤ等ノ點
ニ就テ質問ヲ致サレマシタガ是等ニ就テハ政府當局者ヨリ
適當ニ皆ナ答辨ヲ致サレテ、遺算ナキヲ示サレタヤウニ存ジマ
ス、鳥取縣外四縣ニ於ケル災害土木費借入金ニ對シ利子
ヲ補給スル點モ是ハ又甚ダ遺憾デアリマス、即チ同時ニ災
害ヲ受ケ、最モ部分的災害ノ非常ナルモノト認メラレタル
兵庫縣馬場地方ニ於ケル分、及京都府下丹後方面ニ於ケ
ル部分ガ、此借入金ヲ爲シ得ラレマシテモ、補給ノ利子ヲ國
庫ヨリシテ下付サル、ト云フコトハ出來ナイ、是ハ即チ國庫
ニ於ケル內規ガアリマシテ、其內規ニ未ダ適合セザル爲メニ
此補給ヲ支給スルコトガ出來ナイト云フノゴザイマシテ、
兩縣ノ其慘狀困難ハ、實ニ當局者モ之ヲ深く諒ラシメテ、
內務、大藏兩大臣モ、之ニ對シテ厚キ同情ヲ表シテ居リマ
スルガ唯、內規ノ示ス所已ムヲ得ズ、是ニ補給ヲスルコト能
ハザルノ實況デアル、併ナガラ此內規ナルモノモ、必ズシモマ
ダ完全ノ內規トバカシハ申サレナイガ、兎ニ角何カ條規ガ無
ケレバ濫ニ陷ルガ故ニ、今日ハ此內規ニ依ッテ已ムヲ得ズ補
給ヲ差控ヘテ居ル、併ナガラ何カ特別ノ方法ヲ見出スニ於
テハ之ヲ補給スルニ決シテ者ナラザルモノデアアル、故ニ今日
ニ於テハ、何カ將來ニ於テ他ニ濫出ノ弊ヲ起ササル範圍ニ
於テテ例ヲ見出シタナラバ、之ニ依ッテ支給スルコト云フコト
ニ付テハ躊躇シナイ、唯、其方法ヲ攻究中デアルト云フコト
ノ上ニ於テ、是ガ未ダ保留サレテ居ルト云フノデ、質問者ニ
モ十分ナル満足ヲ與ヘザリシコトヲ遺憾ト思ヒマス、其他
ニ於テハ帝國開墾株式會社ノ補給ニ關スル外ハ、餘リ質
問モゴザイマセヌ、又何等ノ議論モゴザイマセヌ、獨リ質
問ノ最モ八釜敷キモノハ、此帝國開墾株式會社ノ一條デ
ゴザイマス、是ニ就テハ兎ニ角ニ先頃本院ニ於テ可決セラ
レタ所ノ否ナ貴族院ニ於テモ既ニ通過セラレタ所ノ開墾
助成法ナルモノガ、政府ニ於テ提出致サレ、而シテ之ニ依ッ

テ免ニ角食糧問題ヲ解決スルコト云フコトノ政府ノ聲明アリシ爲メニ、後ヨリ又帝國開墾株式會社ナルモノヲ出スト云フコトハ、其食糧問題ニ於テ矛盾ヲ生サセカト云フコトガ、主トシテ其質問デアリマシタ、又此帝國開墾株式會社ナルモノハ、天下呼ンデ富豪ト稱スル人々ノ發起タルガ故ニ、何等カ其間ニ於テ富豪ヲ援助スルカノ如キ疑義モ生ジタヤウナ傾ガアリマシテ、爲ニ其發起人ノ姓名ヲ示セ、其定款ノ内容ヲ説明セヨト、政府ニ對シテ質問ハ隨分頻發サレタノデゴザイマス、故ニ大體ヲ私ヨリ御報告申シマスルガ、先ヅ以テ帝國開墾株式會社ノ發起人ナル者ノ氏名ヲ順序トシテ申シマスレバ、政府ニ請願シ來リシ所ノ發起人ナル者ハ二十一人名デアリマシテ、ハ政府ヨリシテ、提出サレタモノデアリマス、即チ其人名ハ、瀧澤榮一、武井守正、大倉喜八郎、益田孝、藤山雷太、村井吉兵衛、大橋新太郎、根津嘉一郎、内藤久寬、木村久壽彌太、松方巖、杉原榮三郎、植村澄三郎、中島久萬吉、團琢磨、馬越恭平、鄉誠之助、古川虎之助、藤村義朗、加藤正義、安田善三郎、以上二十一氏ガ即チ發起人トシテ請願ヲ致シタノデアリマス、而シテ之ヲ前申スガ如ク、開墾助成法案ガ既ニ通過シテ居ルノニ、更ニ又之ヲ立テシ政府ノ意見ハ如何ナモノデアルカト云フコトノ質問ニ對シマシテ、政府ハ斯様ニ辯明致シテ居リマス、食糧問題ハ何レノ方面ヨリモ攻究セザルベカラザル問題デアル、未開墾地ヲ開拓シテ米穀ノ產額ヲ豐富ナラシムル事ハ、刻下措キ難キ方法ノ一ナリト信ジツ、居タル所、偶ニ東北振興會及國產獎勵會ヨリ同様に建議ヲ爲ス者ガアリシ故ニ、政府ノ所見ト同一ナルヲ以テ、雙互ノ利益ヲ慮テ遂ニ本案ヲ提出シタト云フコトガ、政府ノ骨子ノ趣意デアリマス、而シテ尙未開墾會社ノ内容ト開墾助成法トヲ比較シテ、政府ノ說明スル所ニ依リマスレバ、開墾助成法ノ趣旨ハ、未開ノ地所ヲ有スル者ニシテ開墾ヲ爲サントスル者ニ對シテ、其資金ノ利子ヲ補助セントスルモノデアル、即チ是ハ自ラ開墾シ自ラ耕作ヲ爲サントスル者ニ資金ノ利子ヲ補助スル、即チ補助スルノデアアル、今度政府ノ補助セントスル帝國開墾株式會社ノ趣旨ハ、其會社ハ開墾事業ヲ以テ目的トシテ居ル、即チ耕作ハ目的デアリ、故ニ利子モ亦目的デアリ、收益モ目的デアリ、開墾事業ガ目的デアル、即チ大面積ノ開墾ヲ爲シテ、其出來上リシモノハ總テ之ヲ自作農タラントスル者、或ハ縁故アル者、公共團體等ニ廉價ニ賣却スルヲ目的トシテ居ル、故ニ言ヒ換ヘテ見マスレバ、寧ロ社會政策ノ一方法デアリ、又國家的ノ事業デアルト云フコトガ趣意ノ違フ所デアル、而シテ前者即チ開墾助成法案ニ依ル補助ハ、六米ト云フコトハナリマスガ、併ナガラ此開墾助成法ニ依テ開墾ヲ爲サントスル者ガ出願シテ、而シテ

補助ヲ受ケル其額ハ、一段歩ニ付テ十九圓八十錢ト云フ積算ニ當ルノデアアル、サウシテ之ニ依テ自耕自作ヲスル者デアル、而シテ後者即チ開墾會社ノ方ハ、八米ト云フコトハ確ニ八米デアルケレドモ、開墾會社ノ請求スル所ノモノハ、十五年間ノ期限トハ云ヒナガラ、其期限ハ十五年ニシテモ、開墾會社ノ事實請求スル補助額ハ四年間、而シテ四年間ニ對スル六百萬圓四年間トシテ居ルノハ何故デアアルカト申セバ、四年間ニ於テ三千万圓全部ノ資本金ヲ拂込ム、其八米ノ利子六百萬圓ヲ補助サレ、バ、之ニ依テ開墾會社ハ一通リノ開墾ヲ致シテ、五年目ヨリ此出來上リシ土地ヲ賣却致シ、即チ小作農タラントスル者、或ハ公共團體ニ賣渡シテ、其得タル全員ヲ以テ更ニ又第二ノ開墾ニ著手スルノデアアルカラ、モウ五箇年後ハ政府ノ補助ヲ要サナイ、即チ四箇年ヲ補助サレ、バ、足リルト云フコトガ、事實ニ於ケル希望ナノデアリマス、請願デアルノデアアル、併ナガラ十五箇年八米ノ補助ト云フコトヲ公ニスル所以ノモノハ、此八米ノ補助ト云フ後援力ニ依テ、此株ニ應ズル所ノ人達ニ安心ヲ得テ投資セシメテ、サウシテ安ニ圓滑ナル運用ヲ起スルコトニシタイト云フノデアアル、即チ八米ノ補助ハ是ハ向フニ見セザル看板デアル、此後援力ニ依テ天下ヨリシテ應募者ヲ得テ、此仕事ヲ爲スルコトニナルノデアアル、而シテ其株ノ方法ハ如何デアルカト云ヘバ、三千万圓ノ五十圓券デスカラ六十萬株、其六十萬株ノ中發起人ハ天下ノ富豪ト云ハレケレドモ、是ハ六十萬株シカ持タナイ、残り五十萬株ハ天下ニ之ヲ公募スル、而シテ其發起人一人ニ付テハ又一千株以上ヲ持ツコトヲ許サナイ、一人一千株以內タル事、サウシテ百人許リノ人達ハ凡ソ十萬株ヲ持ツテ、残り五十萬株ハ確ニ之ヲ一般ヨリ、コレミアム付ケズノ公募ヲ爲スト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、即チ此五十萬株ニ應ズルノ人達ガ八米ト云フコトノ後援力ニ依テ、安ンジテ之ニ應ゼシムルト云フガ爲メニ、此八米ハ表面ニ之ヲ掲ゲテ居ル、事實ニ於テハ四箇年ニシテ足レリ、斯ウニ云フコトニナッテ居ルト説明ヲ致シマシタ、而シテ此等ノ事ニ對シテ此八米ノ利子ヲ得ル開墾會社ガ、自作農タラントスル六米ノ補助ヲ得ル開墾希望者ノ事業ヲ壓迫シハセヌカ、或ハ土地ノ競争ヲ惹起シハセヌカト云フコトニ對シテハ、政府ハ又之ヲ防グベク、土地利用調査會ヲ設ケテ、是等ノ事ニ就テモ相當防グコトニ致ス、斯様ニ聲明サレマシタ、是等ガ先ヅ大體ニ於ケル開墾會社ニ對スル質問ノ要點デアリマス、此ニ於テ質問四日間ニ亙リマシテ、結局質問ヲ打切りマシタガ、最後討論ニ移リマシテ、井上角五郎君ヨリシテ、以上ノ如キ種々ナル質問ヲ綜合致シテ、政府ニ確メテ置キタイト云フコトデ、更ニ最後ノ質問ヲ試ミマシ

タ、其最後ノ質問ハ、株式ハ公平ニ募集セシムルコトニスルノデアアルカ、即チ會社ニ向テ政府ガ命令ヲスルト云フコトニ付テ、株式ハ公平ニ募集セシムルコトニスルカ、ソレカラ計算ヲ監督シ、特ニ重役報酬、總務費用ニ對シ、嚴重ニ監督スルト云フコトニ致スカ、年々開墾理立スベキ地積ヲ豫定セシメ、個人乃至法人ノ助成案ニ依ルモノト、素池ノ收得其他ニ關シテ競争セズ、即チ個人乃至法人ノ開墾助成法案案ニ依テ開墾セントスル者ト、其帝國開墾株式會社ノ開墾セントスル素地ニ就テ、ソレヲ奪フト云フガ如キ競争ハセスト云フコトニ命令ヲスルカ、第二ニハ天災其他ニテ損害ノ虞多キモノニ著手セザル事トスルカ、損害スルト云ヘバ、國家ガ帝國開墾株式會社ニハ損失ヲ補償スル義務ガゴザイマスガ故ニ、天災其他ニ於テ損害ノ虞多キモノハ、漫リニ之ニハ著手セヌトシナケレバナラヌ、斯様ナ事モスルカ、第三ニハ豫定ノ町歩ノ著手ヲ、徒ラニ減少スルニ至ラザルコトヲ期スルコトガ出來ルカ、場合ニ依テハ以上ノ開墾理立ニ關スル地積ヲ豫定スルニ付テハ、先ニ申上ゲマシタ通り、土地利用調査會ト云フモノヲ設ケルコトガ出來ルカ、ソレカラ助成案ニ依ル開墾者ガ其工事ヲ委託シタルトキハ、之ガ請負ヲ爲サシムル事、即チ開墾者ガ助成法ニ依テ開墾ヲ許サレテ、之ヲ更ニ帝國開墾株式會社ニ仕事ヲ頼ソグトキハ、ソレヲ請負ト爲サシムルコトガ出來ルカドウカ、但シ其開墾者ニ對シ、其爲メニ助成法ニ依ル補助交付ヲ妨ゲザルモノトス、即チ頼ソグカラツテ、助成法ニ依ル補助六米ガ取レナイト云フヤウナ事ガ無イモノデアアルカ、斯様ナ事ガ帝國開墾株式會社ニ對スルノ命令條項トシテ、政府ハ斷行スルコトガ出來得ラル、カト云フ事ニ就テ、結局ヲ確メマシタ所が大藏大臣ガ政府ヲ代表シテ、是等ノ事ニ就テハ總テ政府モ同一意見デアアルカラ、之ヲ實行致サウト云フコトヲ言明致サレタノデアリマス、ソコデ更ニ希望ヲ提出致シマシタ、即チ井上君ヨリシテ希望ヲ提出致シマシタ、ソレハ帝國開墾株式會社ニ對スル政府ノ命令事項ガゴザイマスルガ、ソレニ追加シテ、以下茲ニ申上ゲマスル五項ヲ追加スルコトヲ、必ズ實行シテ貰ヒタイト云フコトノ希望ガゴザイマシタ、ソレハ第一配當ハ如何ナル場合ニ於テモ、八分ヲ超ユルコトヲ得ザル事、八分ヨリハ決シテ超ユルコトハ出來ナイ、前項ノ配當ヲ爲シ向ホ餘アルトキハ、既往ニ於ケル資本ノ缺損ニ對スル補助ヲ返還セシメ、向ホ餘アルトキハ、其餘ニ應ジ開墾地賣拂代金ヲ減額スル事トシ、其減ズベキ金額ハ各年度ニ於テ政府ノ承認ヲ經ル事、第三開墾地ハ自作農タラントスル者、縁故者、又ハ公共團體ノ順位ヲ以テ優先賣渡ヲ爲ス事、第四前項ノ場合ニ於ケル開墾地ノ賣却價格ハ、開墾成功費ノ五割増ニ當ル金額ノ範圍內ニ於テ之ヲ定ムル事

但シ其他ノ場合ハ政府ノ承認ヲ得テ、此標準ニ依ラザルコトヲ得、是ハ即チ自作農、縁故者、公共團體ノ外ニ賣ルトキノ事ヲ意味シテ居リマス、但書以下ハ「ソレカラ第五北海道ハ除外ス、但シ北海道長官ノ要求アルトキハ此限ニ在ラズ、是ハ私ヨリ説明申上デザルモ、又討論ノ場合ニ於テ當事者ノ御方ヨリシテ御話ガアラウト思ヒマスカラ、別ニ私申シマセヌ、唯、茲ニ一言申シテ置キマスルノハ、帝國開墾株式會社ガ、助成法案ニ依テ六米ノ補助ヲ受ケル、開墾者ノ土地ヲ請負シテ爲スト云フコトニ就キマシテ、是ガ二重ニナルカナライカノ問題ニ就テ、委員會ニ於テ鈴木梅四郎君、吉植庄一郎君等ヨリ質問致シマシテ、之ニ就テ多少言語カ錯綜致シマシテ、其解釋ニ苦シムヤウナ點ガゴザイマシタガ、最後井上君ヨリ質問ニ對シテ政府ガ言明ヲ致シテ居リマスカラ、此言明ニ依ルモノヲ相當シテ之ニ抵觸シマスモノハ、取消サレルトコトニ御承知置テ願フコトニ致シマス、先ヅ以上ノ趣旨ニ依リマシテ質問希望等ガ出デマシテ、茲ニ討論ニ移リマシテ、討論ニ移リマスルト、憲政會ヲ代表致シマシテ町田忠治君ヨリシテ、此追加豫算外二件中ニ於テ、帝國開墾株式會社ニ關スル費用、即チ大正八年度ニ於テ、政府ガ八米ノ補助トシテ支出セントスル三十萬圓ト云フモノヲバ、總テ之ヲ削除スル、即チ總豫算ノ農商務省歳出ノ産業獎勵費ノ中カラ之ヲ削除シ、更ニ豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スノ件ニ於テ、此三十萬圓ノ支出ヲ削除スル、斯ウ云フ動議ヲ提出致サレマシタ、而シテ其論旨ハ、帝國開墾株式會社ノ事ニ就テハ種々疑惑ヲ有テ居タガ、唯今井上君ノ質問ニ對スル政府ノ辯明、又井上君ノ説明ニ對スル希望條件等ニ依テ——希望條件ト云フノハ、即チ會社ノ命令條件ノ希望等ニ依テ大ニ其疑惑ハ緩和致シタ、緩和致シタレドモ、併ナガラ政府ノ食糧問題ノ根本ニ於テマダ疑フ點アルヲ以テ、是ハ容易ニ賛成ガ出來ナイ、即チ茲ニ否決ヲ致サントスルモノデアル、併シ其理由ニ至テハ本會議ニ於テ之ヲ陳述スル、斯様ナルコトデ否決ノ動議ヲ提出致サレマシタ、之ニ對シテ國民黨ノ鈴木梅四郎氏ガ之ニ賛成致サレマシタ、其理由ハ他日後トデト云フコトデアリマシテ、理由ハ述ベラレマセヌ、茲ニ井上角五郎氏ハ此原案總テニ賛成ノ意思ヲ表シマシテ、是ハ食糧問題解決トシテ、帝國開墾會社ノコトハ必要ノモノデアル、其他ニ於テモ必要缺クベカラザル費途デアルガ故ニ、全部原案ヲ賛成スルト云フコトデアリマシタ、而シテ北井波治目君ヨリモ亦賛成ノ御趣旨ガ演說サレマシタガ、是モ最初多少疑フ持テ居タガ、今日ハ全ク此開墾會社ニ對スル疑惑レテ、唯、將來ニ於テ政府ハ宜シク監督ヲシテ、國費ノ支出ヲ十分ニ慎シムヤウニシテ欲シ、慎シムト

云フコトモ十分ニ管理シテ欲シ、開墾會社ニ餘リ多クノ補助ガ行カナイヤウニシテ欲シト云フ希望ヲ述ベマシタ、兒玉右二君ハ無條件ニ於テ、此帝國開墾會社ノ補助ハ最モ賛成スル所デアル、而シテ豫算全體モ之ヲ認ムル、斯様ナ結果デゴザイマシテ、是ニ於テ討論終結シテ採決ヲ致シマシタ、即チ町田君提出ノ否決意見ハ舉手ニ問ヒマシタル所二十四名デゴザイマシタ、即チ出席五十九名ニ付キマシテ二十四名デゴザイマシタノデ、是ハ否決ニナリマシタ、尙ホ念ノ爲メ原案賛成ヲ問ヒマシタル所、三十五名デゴザイマシタ、即チ多數ニ依テ委員會ハ全部原案ノ通り決定致シマシタ次第デゴザイマス、此段御報告申上デマス

〔拍手起ル〕

○議長(大岡育造君) 本案ニ就テハ討論ノ通告ガアリマス、町田忠治君

〔拍手起ル〕

○町田忠治君 此追加豫算案中農商務省所管ノ中、帝國開墾株式會社助成金ニ關スル金三十萬圓ヲ削除シタイト云フ修正動議ヲ提出致シマス、斯ク申シマス、此金額ハ今年ニ於テ現ル、所極メテ少額デ、大體ニ於テ、大ナル利害關係ノ無イ問題カノ如ク見エマス、去リナガラ此案ヲ將來ニ互テ考ヘマス、暫ニ此案ニ依テ帝國庫ガ三千五百萬圓ノ補助金ヲ少ナクトモ支出セザルベカラザルノミナラズ、若シ此會社ガ缺損ヲ重ニ、此缺損ヲ補填シタ上ニ、年八米朱ト云フノ補助ヲ致ス場合ニ於テハ、恐クハ十五箇年間ニ、四五千萬圓ヲ政府ガ支出スル義務ヲ負フベキ大ナル問題デアリマス、御承知ノ通り我々衆議院ガ、開墾助成法案ニ對シテ各派小委員會マデ開キマシテ、國家食糧問題ノ解決ヲ急トスルガ爲メニ、國家問題トシテ、各派虚心平意ニ開墾助成法案ヲ修正致シマシタ、而シテ之ガ爲メニ國民ハ、少ナクトモ五千萬圓ヲ支出スルコトハ躊躇シナカタデアリマス、然ルニ其案僅ニ衆議院ヲ通過スルヤ、政府ハ遽然トシテ又此開墾株式會社ノ補助ノ案ヲ提出サレタデアリマス、御承知ノ通り連日委員會ニ於キマシテ質問應答ニ依テ、政府ノ此案ヲ提出セラレタル趣意ノ大要、又吾々議員ガ之ニ對シテ種々ナル質問ヲ致シタコトハ、新聞ニ依テ天下ニ公ニセラレタデアリマスカラ、私ハ茲ニ詳シク申シマセヌ、而シテ昨日ノ豫算總會ニ於テ、政友會ノ井上君ヨリ此帝國開墾株式會社ノ命令案ニ對シテ、頗ル重大ナル修正ヲ加ヘラレ、政府之ニ同意セラレマシタ、若シ此修正セラレタル命令書ヲ以テ、政府ガ賛ニ吾々ニ示シタル所ノ命令書ト比較シマシタナラバ、其内容モ頗ル改良サレ、其體面モ頗ル改良サレテ居リマス、去リナガラ此兩者

但シ其他ノ場合ハ政府ノ承認ヲ得テ、此標準ニ依ラザルコトヲ得、是ハ即チ自作農、縁故者、公共團體ノ外ニ賣ルトキノ事ヲ意味シテ居リマス、但書以下ハ「ソレカラ第五北海道ハ除外ス、但シ北海道長官ノ要求アルトキハ此限ニ在ラズ、是ハ私ヨリ説明申上デザルモ、又討論ノ場合ニ於テ當事者ノ御方ヨリシテ御話ガアラウト思ヒマスカラ、別ニ私申シマセヌ、唯、茲ニ一言申シテ置キマスルノハ、帝國開墾株式會社ガ、助成法案ニ依テ六米ノ補助ヲ受ケル、開墾者ノ土地ヲ請負シテ爲スト云フコトニ就キマシテ、是ガ二重ニナルカナライカノ問題ニ就テ、委員會ニ於テ鈴木梅四郎君、吉植庄一郎君等ヨリ質問致シマシテ、之ニ就テ多少言語カ錯綜致シマシテ、其解釋ニ苦シムヤウナ點ガゴザイマシタガ、最後井上君ヨリ質問ニ對シテ政府ガ言明ヲ致シテ居リマスカラ、此言明ニ依ルモノヲ相當シテ之ニ抵觸シマスモノハ、取消サレルトコトニ御承知置テ願フコトニ致シマス、先ヅ以上ノ趣旨ニ依リマシテ質問希望等ガ出デマシテ、茲ニ討論ニ移リマシテ、討論ニ移リマスルト、憲政會ヲ代表致シマシテ町田忠治君ヨリシテ、此追加豫算外二件中ニ於テ、帝國開墾株式會社ニ關スル費用、即チ大正八年度ニ於テ、政府ガ八米ノ補助トシテ支出セントスル三十萬圓ト云フモノヲバ、總テ之ヲ削除スル、即チ總豫算ノ農商務省歳出ノ産業獎勵費ノ中カラ之ヲ削除シ、更ニ豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スノ件ニ於テ、此三十萬圓ノ支出ヲ削除スル、斯ウ云フ動議ヲ提出致サレマシタ、而シテ其論旨ハ、帝國開墾株式會社ノ事ニ就テハ種々疑惑ヲ有テ居タガ、唯今井上君ノ質問ニ對スル政府ノ辯明、又井上君ノ説明ニ對スル希望條件等ニ依テ——希望條件ト云フノハ、即チ會社ノ命令條件ノ希望等ニ依テ大ニ其疑惑ハ緩和致シタ、緩和致シタレドモ、併ナガラ政府ノ食糧問題ノ根本ニ於テマダ疑フ點アルヲ以テ、是ハ容易ニ賛成ガ出來ナイ、即チ茲ニ否決ヲ致サントスルモノデアル、併シ其理由ニ至テハ本會議ニ於テ之ヲ陳述スル、斯様ナルコトデ否決ノ動議ヲ提出致サレマシタ、之ニ對シテ國民黨ノ鈴木梅四郎氏ガ之ニ賛成致サレマシタ、其理由ハ他日後トデト云フコトデアリマシテ、理由ハ述ベラレマセヌ、茲ニ井上角五郎氏ハ此原案總テニ賛成ノ意思ヲ表シマシテ、是ハ食糧問題解決トシテ、帝國開墾會社ノコトハ必要ノモノデアル、其他ニ於テモ必要缺クベカラザル費途デアルガ故ニ、全部原案ヲ賛成スルト云フコトデアリマシタ、而シテ北井波治目君ヨリモ亦賛成ノ御趣旨ガ演說サレマシタガ、是モ最初多少疑フ持テ居タガ、今日ハ全ク此開墾會社ニ對スル疑惑レテ、唯、將來ニ於テ政府ハ宜シク監督ヲシテ、國費ノ支出ヲ十分ニ慎シムヤウニシテ欲シ、慎シムト

云フコトモ十分ニ管理シテ欲シ、開墾會社ニ餘リ多クノ補助ガ行カナイヤウニシテ欲シト云フ希望ヲ述ベマシタ、兒玉右二君ハ無條件ニ於テ、此帝國開墾會社ノ補助ハ最モ賛成スル所デアル、而シテ豫算全體モ之ヲ認ムル、斯様ナ結果デゴザイマシテ、是ニ於テ討論終結シテ採決ヲ致シマシタ、即チ町田君提出ノ否決意見ハ舉手ニ問ヒマシタル所二十四名デゴザイマシタ、即チ出席五十九名ニ付キマシテ二十四名デゴザイマシタノデ、是ハ否決ニナリマシタ、尙ホ念ノ爲メ原案賛成ヲ問ヒマシタル所、三十五名デゴザイマシタ、即チ多數ニ依テ委員會ハ全部原案ノ通り決定致シマシタ次第デゴザイマス、此段御報告申上デマス

相比スレバ彼レ此ヨリ善キノミデアリマシテ、食糧問題ノ解決ノ根本ニ至テハ、二者何等異ナル所ハアリマセヌ、私ハ此國家問題ヲ決スルニ當テ、諸君ニ向テ聊カ茲ニ希望ヲ述ベテ置キタイノハ、此問題ハ一昨日政友會總理ノ方ヨリ内交渉ノアリシ如ク、私ハ之ヲ黨派問題トハ致シタクナイ、飽マデモ國家問題トシテ、出來ルナラバ一致點ヲ見出シテ、衆議院一致ノ希望トシテ之ヲ決議致シタイ希望ヲ持ッテ居リマス、故ニ是ヨリ私が申上デル事ニ對シテハ、事數字ニ涉ル煩瑣ナル問題モアリマスガ、努メテ省略シテ大體ヲ申ス答デアリマスガ故ニ、暫時御清聴ヲ煩シタイト思ヒマス、本問題ヲ解決スル要點ハ分ッテ二ツト致シマス、第一ハ曩ニ衆議院ガ各派一致決議シタル開墾助成法案ハ、今後我國ノ食糧問題ヲ根本的ニ解決スルニ定ルヤ否ヤ、若シ假リニ政友會諸君ノ御考ノ如クニアラズトシテモ、開墾助成法案ト帝國開墾株式會社ト此兩者ハ、果シテ兩立シ得ルカ否ヤ、此二ツノ問題デアリマス、申上デルマデモナク、開墾助成法案ノ本會ニ提出セラレ、開墾助成法案ノ委員會ニ於テ、政府ノ當局ノ言明スル所ニ依レバ、此助成法案ニ依テ、今後十一年ニシテ日本ノ主タル米ノ問題ハ解決シ得ラレル、政府ノ言明斯様デアリマス、而シテ此開墾助成法案ニ依テ開墾スベキ地區如何ト云ヘバ、唯今豫算委員會長ノ御報告トハ全然相違シテ居リマス、政府ハ斯様ニ申シテ居ル、是ガ要點デアリマス、日本内地ニ今後開墾スベキモノ凡ソ二百萬町歩、其中内地ニ於キマシテ開墾シ得ベキ見込ノアル所ハ百三十萬町歩アル、而シテ政府ガ昨年来十三班ノ委員ヲ派遣シテ實地ニ調べタ結果ニ依ルト、大集團——百町以上ノ集團地トシテ開墾シ得ラベキモノハ全國ニ千六百箇所アル、故ニ政府ハ此開墾助成法案ニ依テ、先ヅ第一著手トシテ十五箇年間ニ百町以上ノ大集團地ニ向ッテ、其内二十五萬町歩ヲ開墾致シ、此二十五萬町歩ヲ開墾スレバ、其他ノ農事改良等ノ方法ニ依テ得タル收穫ノ増加ト相俟ッテ、今後十一年ニシテ、日本ノ米ニ關スル食糧問題ハ解決シ得ラレルト云フノガ、開墾助成法案ヲ吾々ニ提出セラレタル所ノ大體ノ趣意デアリマシテ、唯今委員會長ガ申サル、カ如キ開墾助成法案ハ、小規模ノ開墾、自作農ノ意味デ出來タモノデアリト云フコトハ明カデアリマス、若シ唯今ノ委員會長ノ報告ノ如ク、政府ハ此開墾助成法案ニ依テ開墾スベキモノハ、小規模自作農——自ラ耕ス者ニ限定シテ居ルト云フ意味デアラナラバ、何故政府當局者ガ開墾助成法案ヲ本會ニ提出スルニ當テ、此助成法案ノ目的トスル所ノ百町以上ノ大集團地、二十五萬町歩ヲ開拓スルヲ以テ目的トスル、斯様ナ言明ヲ爲サレタデアルカ、此矛盾ヲ承リタイ、吾々委員ハ御承知ノ通り、政府ノ開墾助成法案

ニ對スル——政府ノ原案ニ對シテ大ナル修正ヲ加ヘマシ
タ、此修正ヲ加フルニ當テハ、獨リ我憲政會ノミデハアリ
マセヌ、國民黨、殊ニ政友會ノ委員諸君モ御熱心ニ之ニ大
修正ヲ加ヘタ、其修正ノ主ナルモノハ、第一ハ原案ニハ豫
算ノ範圍内ニ於テ支出スル致シマシテ、八年度ニ現レタ
金額八十萬以內デアリマス、併ナガラ目下ノ食糧問題ヲ解
決シ、並ニ將來ノ食糧問題ヲ解決スルニハ、斯ル小規模ノ
計畫デハ宜カラヌ、宜シク豫算ノ範圍内ト云フ文字ヲ削
テ、苟モ他ノ條項ニ相當スル開墾業者ニ向テハ、今後法
律ノ結果トシテ之ヲ支出スルガ宜イト云フノガ、衆議院一
致ノ希望デアリマス、貴族院ニ於キマシテハ、之ニ對シテ種
種ナル解釋ヲ加ヘラレ、大藏大臣ハ、豫算ノ範圍内ト云フ文
字ヲ削テモ、創ラズトモ、同様デアルト云フ説明ヲシタト承
リマスガ、少クモ衆議一致ノ希望ハ、憲法上法律ノ結果ト
シテ、之ヲ支出スル意味ニ於テ吾々ハ修正ヲ加ヘタノデア
リマス、此修正一ツ、第二ノ修正ハ、政府ノ原案ハ開墾地
五十町以上大集團地ニ向テ、之ヲ開墾スル、補助ヲ致スト
云フ原案ヲ修正シテ、吾々ハ之ヲ五町マデ引下ゲテ、小規
模ノ開墾モ大規模ノ開墾モ、齊シク此法律ノ惠ニ浴セント
云フノガ吾々ノ提案デアリマス、唯ダ五町歩ニ向テ、國民
黨ノ委員ノ方ノ御希望デアリマスガ、一町歩五町歩ト雖
モ、一計畫ノ下ニ此開墾ガ出來ルナラバ、集メテ之ヲ五町
トシタナラバ、齊シク之ニモ助成法ニ依テ補助ヲ與ヘル、社
會政策ニ依リ現ニ我國ノ自作農ハ年々減ジ、一方大地主
ニ兼併ノ弊ガアル、此社會ノ狀態ヲ改良シ、農村ノ開發ヲ
計ル爲メニハ、各村ニ向テ出來得ルダケ自作農ヲ植付ケ
ルト云フ、此趣意ニ依テ我衆議院ハ各派一致シテ、之ヲ
五町歩ニ引下ゲタル意味ヲ以テ、開墾助成法ハ、恰モ小規
模ノ開墾ニ限ラレルガ如キ言ヲ弄サレマシタガ、斷ジテ吾々
衆議院ノ修正ハ左様デアリマセヌ、大規模ノ開墾モ此助
成案ニ依テ行ヒ、小規模ノ開墾モ此助成案ニ依テ行ハ
ル、大小孰レモ此惠ニ浴スルノガ吾々ノ本旨デアリマス（拍手
起ル）然ルニ政府ハ、此案ヲ出スノハ、今後十五箇年
二十五萬町歩ヲ開墾助成法ニ依テ開墾シ、然モ大規
模ノ面積百町歩以上ノモノヲバ之ニ依テ開墾ヲシテ、
先ヅ今後數十年ニシテ、我國ノ食糧問題ハ解決シ得ルト
吾々ニ先刻説明サレタガ、併ナガラ吾々ハ、更ニ此意味ヲ擴
張シテ、一層大ナル開墾ノ面積ヲ得シガ爲メニ、此制限ヲ
五町ニ擴張ガ爲メニ、若シ十五年ニ二十五萬町歩出來
ル政府ノ案デアタナラバ、吾々ノ修正ニ依テ三十萬町歩
乃至三十五萬町歩ハ、此ノ助成法ノ結果ヨリ得ラレト思
フデアリマス、然ルニ此案ガ僅ニ衆議院ヲ通過スルヤ、何

故カ直チニ帝國開墾株式會社ト云フ、一種廣大ナル補助
ノ下ニ、特殊ノ會社ヲ造ルト云フコトヲ提出サレマシタ、私
ハ前申上ゲマシタ如ク、開墾助成法案ニ依テ、政府ガ管ニ
今後十五箇年間ニ、我國ノ不足トスル所ノ食糧問題ヲ解
決シ得タノミナラズ、吾々ノ修正ニ依テ、更ニ多クノ米ノ
生産ガ益ニ得ラレト云フコトヲ確信致シマス、然ルニ政
府ガ更ニ之ヲ出シテ趣意ヲ承リマセシレバ、其趣意何レニ在
ルカト云フト、諸君御承知ノ通りニ、總理大臣ノ之ヲ提出
サレタ動機意思、農商務大臣ガ此案ヲ提出サレタ理由、
又大藏大臣ガ農商務大臣ニ代テ此案ヲ提出サレタ趣
意、ソレト異テ居リマス、總理大臣ハ曰ク、豫テ斯ル會社
ヲ以テ、開墾助成法案ト相俟テ、日本ノ食糧問題ヲ解決
シタイト思ウテ居ル矢先、幸ヒ富豪ノ某々相集テ此希望
ヲ提出シタルガ故ニ之ヲ容レタ、豫テ斯ルナル考ヲ持ッ
居タト云フノガ總理大臣ノ言明デアリマス、農商務大臣
ハ曰ク、斯ル考ハ無カタ、唯、衆議院ガ開墾助成法案
ヲ改正シテ、小規模ノ開墾ハ此會社ヲシテ其任ニ當ラシメヤウ、
故ニ、大規模ノ開墾ハ開墾株式會社ト補助スルニ至ラダ
ス、斯様ニ言明サレテ居ルコトハ、豫算總會委員諸君ノ何レモ
御承知ノ次第デアリマス、此點ニ就テ前ニ私が説明致シタ
如ク、吾々ノ修正ハ大規模ノ開墾ハ、此法以外ノ排除スル
ノガデアリマセヌ、大規模小規模併セテ之ヲ行フノガ、開墾助
成法案ノ趣意デアル以上ハ、此修正ニ依テ農商務大臣ガ
食糧問題ニ對スル政策ヲ直チニ變化シテ、大規模ノ開墾
ハ會社ヲシテ之ヲヤラシムルト云フ其意味ガ、吾々ハ了解ニ
苦シム所デアリマス、更ニ大藏大臣ハ曰ク、吾々ハ斯様ナ案
ヲ出ス考ハナイ、唯、富豪連中カラ希望ガアタカラ、受働的
ニ此案ヲ受ケテ帝國議會ニ出シタノ大藏大臣ノ演說ハ
斯様デアリマス、而シテ此計畫ノ内容ニ於テ吾々委員ノ質
問ニ對シ、連日ノ政府ノ答辯ハ、或ハ右シ、或ハ左シ、一向
其歸著スル所ヲ知ラヌノハ私ノ申スマデアリマセヌ、凡ソ
計畫ノ杜撰——屢、議會ニ現レマス計畫ノ杜撰トシテ、計
畫ノ不十分ナルコトヲ評スルコトガ多イガ、若シ眞ニ如何ナ
ルモノガ杜撰デアルカト云ヘバ、先ヅ帝國開墾株式會社ノ
如キモノハ、杜撰ノ最モ好イ例デアルト思ヒマス（拍手起
ル）若シ內務大臣ノ説明ニ矛盾若クハ支離滅裂ト云フコ
トガアルナラバ、此案ニ對スル首相、大藏大臣、農商務大
臣、此三大臣ノ答辯ホド支離滅裂、矛盾ノモノハデアリマセ
ヌ拍手起ル凡ソ我が今日ノ財政ニ於テ、食糧問題解決
ノ爲メニ、開墾助成法案ニ於テ五千萬圓ヲ支出スルト云
フコトハ、頗ル慎重ノ態度ヲ要スベキ問題デアリマス、之ヲ
決シナガラ、而シテ今後十五箇年ニ於テ食糧問題ハ之ニ
依テ解決シ得ラレト、諸君ト吾々ガ信ジテ大修正ヲ加ヘ

ナガラ、其事ガ未ダ實施セラレザルニ當リ、尙ホ之ヲ以テ足
レリトセズ、更ニ少クモ三千五百萬圓ヲ要スル所ノ帝國
開墾株式會社ニ向テ助成ヲ致スト云フナラバ、少クトモ
衆議院トシテハ、輕舉妄動タルヲ免レト私ハ甚ダ遺憾ニ
思フ（拍手起ル）若シ吾々ヲシテ言ハシムレバ、諸君モ御同
感デアリマセウ、開墾助成法案ニ於テ若シ實行ガ出來ザル
點ガアリトスレバ、ソレハ其開墾スル者ニ向テ、如何ニシテ
資金ヲ供給スルカト云フ此機關ノ備ラヌコトガ、開墾助成
法案ノ實施ニ於ケル一大故障デアリマス、吾々ハ委員會ニ
於テ、此開墾助成法案ヲ實施スルニ於テ、政府ガ農工銀
行若クハ勸業銀行法ヲ改正シテ、開墾資金ヲ直接ニ供給
スルノ意志無キヤ——有ルヤ否ヤト云フコトヲ問ヒマシタ、
政府ハ斯ル意志ハ無イト答ヘタ、農工若クハ勸業銀行法
ヲ改正シテ、其資金ヲ裕ニスル途微セバ、私ハ更ニ開墾
ニ關スル一ノ特別ナル金融機關ヲ設ケルト云フ爲メニ
ニ、天下ノ富豪相集テ會社ヲ作り、ソレニ向テ補助ヲ希
望スルナラバ、一考ノ價アルモノト私ハ斯様ニ考ヘル、併ナ
ガラ政府ハ更ニ其邊ノ考ヲ持タズシテ、俄ニ之ヲ提出シタ、
若シ——私ハ眞ニ斯様ニ思フ、政府ガ開墾助成法ヲ提出
セズシテ、單ニ此會社ヲ保護シテ、日本ノ開墾ニ從事セシム
ル意味ヲ以テ、特殊ノ開墾會社ヲ作ルト云フ提案デアタ
ナラバ、國家社會主義ノ點カラ考ヘテ見テ、此内容ヲ幾分
カ訂正致シタナラバ、國家ニ代テ從事ニ當ル所ノ一種ノ保
護會社トシテ、之ヲシテ開墾ニ從事セシム、其成功シタル土
地ヲ以テ、公共團體若クハ自作農ヲ植付ケルト云フ社會
政策ヲ實行スルデアタナラバ、私ハ此趣意ハ一考ノ價ガア
ルト思ヒマス、又更ニ一歩ヲ讓テ政府ガ開墾助成法案ヲ
提出スルト同時ニ、此帝國開墾株式會社補助ノ議案ヲ出
シテ、此兩者ノ按排ヲ考究シ、兩々相進ニ行カル、一ノ考
ヲ吾々ニ求メタナラバ、或ハ開墾助成法案ニモ修正ヲ加ヘ、
此帝國開墾株式會社ノ命令ニ向テモ修正ヲ加ヘ、兩者
相進ニ得ル所ノ一ノ成案ヲ得タカモ知レマセヌ、然ルニ政
府ハ開墾助成法案ヲ審議スルニ當テ其意味ヲ問ヒ質ス
ト、政府ハ更ニ斯様ナ會社ヲ以テ、開墾助成法案ト連絡ヲ
取ルガ如キ會社ヲ作ル意味ガ無イト斷言サレテ居ル、私ハ
今ニ於テ當時政府ハ、何故ニ斯ル言明ヲ吾々ニシタカ、其
心事ヲ頗ル疑ヒマス、若シ更ニ一歩ヲ讓テ、同時ニ此兩案
ヲ提出セズトモ、吾々開墾助成法案ヲ審議スルニ際シテ、首
相ガ言明セラル、如何等カノ方法ニ依テ、政府保護ノ一
ノ會社ヲ作ル意志アリト云フコトヲ言明シタナラバ、吾々ハ
開墾助成法案ヲ審議スルニ際シテ、之ニ向ウテ十分ノ考
慮ヲ加ヘル餘地ガアリマシタ、政府ハ之ニ向テ何等言明
致サズ、寧ロスノ如キ計畫アルコトヲ隱蔽シテ、先ヅ助成法

モ議論ヲスル事ガゴザイマセヌケレドモ、反對論者ノ議論又世間ニ傳ヘテ居ル所ノ議論ソレハ内容ヲ知ラズシテ傳ヘテ居ル議論モアリ、内容ヲ知ンテ稍、反對ノ意ヲ表シテ居ル者モアリマスガ、是等ヲ舉ゲテ論ズル前ニ當テ、先刻豫算委員長ガ報告セラレタル命令條項ノ一二ヲ舉ゲテ、其意味ヲ先ヅ以テ明白ニシテ置キタイト思ヒマス、命令條項ノ中ニハ個人法人ノ開墾助成法案ニ依ッテ開墾ヲスル者ト、此會社トハ、競争ヲセシメナイト云フ一箇條ガアル、例ヘバ茲ニ一ノ國有山林ガアル、之ヲ拂下ゲテ開墾ヲシタラ定メテ宜カラウト思ッテ、個人ガ此山林ノ拂下ヲ望ム場合ニ當ツテ、會社ガ——堂々タル大會社、三千万ノ資本ヲ有シ、立派ナ者ガ株主ニナッテ居ル會社ガ又其山林ノ拂下ヲ望シダナラバ、時ノ政府ノ如何ニ依ッテハ、或ハ會社ノ爲メニ其山林ガ取ラレルカモ知レナイ、故ニ土地ノ收得其他ニ關シテ競争ヲセシメナイト云フ、命令條項ニ一ノ特ナル箇條ヲ加ヘタノデアリマス、斯ウ云フヤウナ競争ハサセヌ積リデアリマス、又雷ニ此會社ハ利益アリミハ朱トシテ補給スルノデハナク、萬一損失ガアツタ時ニハ、其損失ヲ補填シテヤルノデアルカラ、如何ニ其損失ガ多クナッテ、國家ノ負擔ガドノ點ニ至ルカ分ラヌト心配スル者ガアルカラ、命令條項ハ即チ著手スル前ニ當テ、天災其他ノ危險損害ノ虞ノ多イモノハ、之ヲ差止メルト云フ條項ヲ加ヘテアルノデアル、又十五年間ニ二十五万町歩ノ開墾ヲスルノデアルカラ、之ヲ一年ニ割ッテ見レバ一万六七千町歩、必ズ此會社ハ、一万六七千町ノ町歩ハ著手シナケレバナラヌト云フコトモ、又命令條項ニ書イテアルノデアアル、果シテ然ラバ此開墾會社ハ、開墾助成法案ニ依ル所ノ開墾ノモノト、決シテ競争シナイ、衝突シナイ、而モ大ナル損害ヲ受ケズ、而モ豫定ノ地積ハ開墾シ得ル、必ズ得サセルト云フノガ、此命令條項ノ趣意デアルト云フコトハ、諸君モ御了解デアラウト思フ、又此開墾會社ガ、開墾助成法ニ依ッテ開墾ノ權利ヲ得、許可ヲ受ケ、其助成法ノ交付金ヲ貰ヒ、其仕事ヲ請合フコトガ——其時ニハ請合ハヌト云フコトガ、命令條項ノ一箇條ニハ載ッテ居ルノデアアル、此點ニ就テ唯今町田君ガ、ソレデハ開墾助成法案ニ依ルノ六朱ノ補給ヲ爲シツ、又更ニ會社ニ對スル八朱ノ補給ヲ受ケテ、補給ノ二重取ヲスルノデハナイカト云フコトヲ言ハレマシタ、町田君ニシテ斯様な疑問ノ起ルノハ、如何ハシク私ハ承リマシタケレドモ、併シ町田君ハ但書ヲ加ヘテ、尤モ計算ハ能ク知ラヌケレドモト仰シヤッタ、計算ヲ能ク知ラヌコトハ、町田サンダツテ間違フダラウト思ッテ、私ハ此點ニ就テハ強チ深クハ咎メナイノデアアル(拍手起ル)試ミニ考ヘテ御覽ナサイ、五町歩以上ノ開墾ヲスル、假リニ五町歩以上ノ開墾ヲスル者ガ、五万圓之ヲ實費トシテ政府ニ届出デ、サウシテ五

万圓ニ對シテ六年乃至七年間年々六朱ノ補助ヲ受ケル、之ヲ會社ニ持テ行ツタラバドウスルデセウ、會社ガ矢張五萬圓引受ケルデセウカ、之ヲ五萬圓引受ケタラバ政府ハ會社ヲ保護スル趣意ニ外レタル重役ノ行爲ト、之ヲ認メザルヲ得ナイ、何故ナラバ政府ガ會社ヲ保護スルノハ、三萬圓ニ對シテ年々八朱ノ配當ハ必ズ爲サシメル、之ヲ義務トシテ、之ガ報酬トシテ二十五萬町歩ノ開墾ヲスルト云フノ命令デアル、其二十五萬町歩以上ノ開墾ヲシテ得タル土地ハ、自分デ所有スルコトガ出來ナイ、之ヲ安ク賣レト云フノガ、之ガ命令デアル、人ノ仕事ヲシテ一唯、シテヤレ、人ノ仕事ヲ請合ツタラ實費デ自分ノ諸入費ハ持出シテヤレヤレト云フ命令ハ無イ、故ニ唯今ノ五町歩ノ開墾ヲスル個人ガ會社ニ頼ミ行ケバ、此五町歩ノ開墾ノ實費、例ヘバ五萬圓トスルナラバ、五萬圓以外ニ會社ハ相當ノ手數料、ソレニ掛ル所ノ役人ノ監督費、並ニ會社ガソレニ向ッテ要スル所ノ資本ノ利益タケハ別ニ要求スルノデアル、此點ガ町田君ノ意見ニ於テハ別ニナラナイ、私ハ政府委員ニ對シテ、豫算委員會ニ於テ斯様ナ事ハ聽キマセヌ、質問ハシナカッタカラ、政府委員モ答ハセヌデシタケレドモ、凡ソ斯様ナ場合ニハ斯様ニナルベキモノダ、決シテハ二重ニナルモノデナイト云フコトハ、申上ゲテ置カレバナリマセヌ、會社ノ配當ハ年利八朱デアル、此八朱ト云フコトノ意味ハ、是カラ先ニ私ガ議論ニ入ルニ當テ必要ガアルカラ、明瞭ニ申上ゲテ置キマス、會社ガ損失ヲシタトキニハ政府ハ補填シマス、サウシテ八朱ノ配當ヲシマス、幾ラ利益ヲ出シテモ、會社ハ八朱ノ配當シカ出來マセヌ、八朱以上ノ利益ガアレバ、或ハ前日ノ損害補填ヲ返還セシメ、或ハ成功シタル土地ノ直段ヲ減價セシメテ、會社ニハ少シモ八朱ノ配當以外ノ利益ヲ殘シマセヌ、故ニ解散ノ時ニ當テ會社ハ如何ナル狀態ニナルカト云ヘバ、所謂法定積立金一年々幾ラ積立ンダ所ノ法定積立金ガ五箇年間殘ルト云フノ、株金三千萬圓殘ル外ニハ何モ殘ラヌ、其法定積立金ハ、取モ直サズ會社ノ解散ノ費用其他ニナルノデアルカラ、此會社ノ株主ハ十五箇年間ノ極メテ長イ年限間、八朱ノ定額利ヲ以テ金ヲ貸付ケタト、同ジモノデアルト云フコトニ了解スルコトガ出來ルノデアル、尙ホ茲ニ命令條項ニ就テ一ツ申上ゲテ置カレバナラヌコトハ、其出來上ツタ所ノ田畑ハ、自作農タラントスル者、緣故者、又ハ公共團體ノ順位ヲ以テ之ニ賣渡ス、此值段ハ如何ニスルカト云ヘバ、即チ開墾實費ノ五割以內——開墾實費ノ五割増以內、例ヘバ開墾實費ガ千圓掛タモノナラバ、千五百圓以內、斯様ニシテ自作農者、緣故者、公共團體ニ賣渡スト云フノデアル、千圓掛タモノガ或ハ二千圓モスル、三千圓モスルト云

フ場合ガアツタナラバ、中ニ其土地ハ買手ハ多イ、ソレデモ尙且ツ千五百圓デ賣ラス、若シ又千圓掛タ土地ガ、實際ノ相場ガ千二百圓シカシナイ、或ハ千圓シカシナイト云フ時ニハ、時ノ相場デ之ヲ賣ラス、是ガ即チ命令條項ノ五割増以內ト云フ言葉ニ當ルノデアル、諸君、此五割増以內ト云フコトヲ吾メガ決メテ、又之ヲ政府ガ賛成シタル點ニ就キマシテハ、少シク御聽取ヲ願ヒタイ事ガアルノデアリマス、私モ町田君ニ倣ッテ、稍、數字ガ交ルト云フコトガアリマスカラ、ソレハ能ク間違ハヌヤウニ御聽取ヲ願ヒタイト云フコトヲ願テ置カレバナリマセヌ、開墾助成法案ノ第二條ニ「助成金ハ命令ノ定ムル所ニ依リ工事開始ノ年ヨリ工事終了後四年ニ至ル期間內ニ於テ」云々トアリマス、果シテ第二條ノ如シトスレバ、開墾ニ著手シテ終了スルマデ、是ガ假リニ三年掛ルトスル、其後四年間デアル前ガ三年掛ッテ後ガ四年デアルナラバ、合計シテ六年、若シ工事ノ期間ガ四年掛ッタナラバ、工事ノ期間ガ四年、其後四年間デアルカラ、合計シテ七年一年ハ八重ルノデアル、開墾助成法案ニ依リ年利六朱ノ交付ヲ受ケルハ、先ヅ通常六年間或ハ七年間ト見テ宜カラウト思ヒマス、茲ニ一人ノ人ガアッテ、開墾助成法案ニ依リテ開墾スル場合ニ當ッテ、其ノ人ガ幸ニ金ガ有ツタナラバ此上モ無イ仕合デアル、若シ金ガ無カタナラバ、借財ヲシテ開墾ニ著手ヲシナケレバナラヌ、此借財金利ハ正ニ幾何ト見テ相當デアリマセウカ、殊ニ自作農タラントスル者ト云フ如キ身分ヲ以テマシテ、他人ニ金ヲ借りテ開墾スルトシタナラバ、年利一割二分ハ已ムヲ得ナイ利子デアラウト思、テ居ル年利一割二分ハ已ムヲ得ナイ利子デアラウト思、六朱ハ助成法案ニ依リテ交付セラレテ、残り六朱ト云フモノハ、開墾實費以外ニ之ヲ何トカシテ融通セザルヲ得ナイ、其残り六朱ノモノヲ融通スルニ付テ、六朱ヲ長利デ計算スレバ、六年掛レバ即チ四割一分八厘ニナル、七年ニスレバ即チ五割二分ニナル、故ニ開墾助成法案ニ依リテ開墾ヲスル者ガ、資本ヲ一割二分デ借りテヤタトスルナラバ、他人ニ開墾ヲシテ貰フタ、一割五分以內デ買ツタノト別段ノ違ハナイト云フコトガ起テ來ル、五町歩以上ノ開墾ヲ自ラ金テ得ル人ハ既ニ中農デアリマス、或ハ場合ニ依リテハ、五町歩以上ノ開墾ヲ金テ得ル者ハ、地方ニ於ケル金持ト謂ッテ宜シイノデアル、將ニ自作農者タラントスル者ノ如キハ、斯様ナ計畫ハ出來マセヌ、斯様ナル計畫ガ出來ナイモノガ、此開墾助成法案ニ依リテ其計畫ヲスル者ト同ジヤウナ計算ヲ以テ、土地ヲ我所有ニ歸スルコトガ出來ル、況ヤ會社ガ利益シテ居ル時ハ、其值段ヲ一層減ジラレテ居ル、況ヤ政府ハ左様ナル自作農者若クハ公共團體ニ向ッテ、低利資金ノ融通ヲシテヤルト云フ居ルナラバ、此開墾助成法案コソ、

中農以下ノ農民ヲ救助スル唯一ノ便宜ナルモノデアッテ、公共團體ニ依リテ、初メテ自治ノ精神ヲ發揮シ得ルモノデアルト云フコトヲ言ヒ得ルト、私ハ信ジテ疑ハヌノデアリマス、拍手起ル諸君、斯様ニ政府ノ命令條項ニ對シテ解釋ヲ企テ、見マスレバ、恐クハ此案ニ對シテ反對スベキ者ハ無イデアラウト思ハレルノデアリマス、尙且ツ町田君ノ如キ經濟ニ長タル御方ヨリ反對ノ議論ヲ聽クニ至リマシテハ、更ニ進ンデ十分ナル議論ヲ試ミザルヲ得ナイノデアリマス、其私ガ試ミントスル所ノ議論ハ第一ガ米麥ノ過多ニ至ルノ虞レルト云フノハ、果シテ眞實ノ虞デアルカ、所謂杞憂ニ屬スルモノデアアルカト云フコトガ第一デアリマス、第二ハ補助ガ厚キニ失スル、殊ニ開墾助成法案ト此會社契約ノ案トヲ較ベテ權衡ヲ失ッテ居ルト云フノハ、果シテ道理アル反對デアラウカ、第三ニハ是ノ所謂開墾ノ本旨ヲ果タシ、是ノ所謂農民ノ救済デアアルト云フコトヲ、反對論者ハ忘レテ居ルノデハナイト云フ、此三點ニ就テ論ジテ見ヤウト思フノデアリマス、町田君ハ必ズ記憶セラレデアラウ、否ナ確ニ記憶セラレテ居ル、開墾助成法案ヲ提出スル時ニ、政府ハ說明シテ斯様ニ言ウテ居ル、斯様ニ開墾助成法案ヲ實行シ、尙ホ從來ノ如キ手段ニ依ル所ノ開墾ヲ進メ、耕地整理ヲ爲シ、農事ニ改良ヲ爲シ、並ニ朝鮮臺灣ノ米麥ヲ我國ニ移入シタナラバ、米ハ十年以後ニシテ初メテ自給スルコトヲ得ル、麥ハ二十年以後ニシテ初メテ自給スルコトヲ得ル、斯様ニ開墾助成法案ヲ說明スル時ニ政府ハ說明ヲシテ居ル、幾度カ委員會ニ於テ、政府委員ハ開墾助成法案ニ於テ說明ヲ致シテ居リマス、私ハ實ハ其委員會ニ臨ンデモ見マセヌガ爲メニ、委員會ノ速記録ヲ調べテ見マスルノニ、政府委員ガ誰一人トシテ、此開墾助成法案ガアレバ、最早米麥ノ供給ハ十分ナリトハ申シテ居リマセヌ、斯ク色ノ方法ヲ行ヒ、併セテ此開墾助成法案ガ豫期ノ如ク進メバ、米ハ十年以後ニシテ自給スル、麥ハ二十年以後ニハ自給スベシト申シテ居ルノデアリマス、十年間ハ足ラナクテモ宜シイノデアアラウカ、二十年間ハ不足シテモ構ハヌノデアアラウカ、國家自給自足ヲ望ムト云フ點ハ、實ハ明日ヲ待タズ今日ヨリ自給自足ヲ望ムノデアアル、故ニ開墾助成法案ヲ出ス時ニハ、之ヲヤッタナラバ十年二十年後ハ幾ラカ安心ニナレルト思ツタガ、今ヤ帝國開墾株式會社ト云フモノヲ發起シテ、開墾助成法案ト稱、效力ノ匹敵シタルモノヲ出シテ來タカラ、モウ一ツ之ヲ實行シテ、米ノ十年デ自給スルモノハ、切メテ縮メテ五年ニシ、麥ノ二十年ニ自給スルモノハ、切メテ縮メテ十年ニシヤウト云フノガ此案ノ出タ所以デアアル、町田君ハ彼ノ案ヲ出シタ時ニ一緒ニ出シテ吳レタラ宜カラウ、彼ノ案ヲ出シテ吳レタ時ニ、切メテ斯ウ云フ案ヲ出

スト云フコトモ言フテ吳レタラ宜カラウ、此問題ハ黨派問題デハナイ、此問題ハ即チ國家問題デアル、根本的ニ之ヲ論ジナケレバナラヌト仰シヤル御方ガ、何モ其議案ヲ出スノニ、同時デナカッタラウガ、遅カッタラウガ、早カッタラウガ、ソナ手續ノ彼此ヲ言ハズ(拍手起ル)其手續ノ彼此ヲ言ハズシテ、十年ガ五年ニナルノハ仕合デアル、二十年ガ十年ニナルノハ仕合デアルト論ジラレトコ、國家ノ根本問題ニ觸レタモノデアラウト私ハ信ジテ居ルデアリマス(拍手起ル)諸君、果シテ然ラバ其五年十年經テ後ニ自給自足ガ濟ンデ、開墾助成法案ニ依テ二十五万町歩成功シ、此會社補助ノ案ニ依テ、二十五万町歩成功シテ、五十万町歩ノ田畑ガ殖エタナラバ、米麥過多ト云フコトニ苦シム虞ハ無イカト言フカモ知レナイ、諸君、是即チ強テ言ヘバ意氣地ノ無イ議論、桑ガアルデハナイカ、麻ガアルデハナイカ、苧蓆玉モアル(笑聲起ル)馬鈴薯モアル、海外ニ輸出スベキ農産ハ甚ダ少クナイデアリマス、現ニ今日我國ノ耕地面積ニ較ベテ唯今ノ五十万町歩ヲ計算シテ見レバ、僅ニ二分ノ八ニ過ギナイ、幾ラ我日本國ノ田畑ガ百ニ付テハ八割合デ増加シタカラ、之ガ爲メニ耕作ニ堪ヘナイ、之ガ爲メニ米麥ノ多キニ苦シム、之ガ爲メニ新シキ農産ヲ見付ケテ、海外ト貿易ヲ開キ得ルト云フニ至ラヌト云フ程ノ農家デモナカラウデヤナイカ、ソレ程ノ我國デモナカラウデヤナイカ、要スルニ根本ノ問題ニ就テ二十五万町歩既ニ開墾シ、更ニ二十五万町歩開墾スルト云フノハ、根本ノ問題ニ觸レル所ハ無イ、唯、觸レルノハ議案ノ提出其宜シキヲ得ナカッタラウガ、癢ニ障ル位ノ障方ヨリ外ニハ無イデアアル(拍手スル者アリ)「百分ノ八、ソナ算盤ガ何所ニアル」(算盤ガ違フト呼フ者アリ)諸君、十五箇年利八朱ノ貸付同様ノ株式ハ、株主ニ取ッテ果シテ厚キニ失スルモノデアラウカ、私ハ之ヲ以テ薄キニ失スルトハ言ハナイケレドモ、決シテ厚キニ失スルモノトハ言ハナイ、今日ノ經濟狀態カラ考ヘ、今日ノ金融狀態カラ考ヘ、或ハ三年乃至五年ノ据置デ借リノスラ、七朱八朱ノ利子ハ皆ナ出シテ居ル、十五箇年間据置イテ、十五箇年目ニ忽チ總テテ戻ザレト云フヤウナ斯様ナル貸金ニ對シテ、八朱ト云フモノハ強チ喜ンダ金利デハナイデアアル、尤モ此八朱ガ全クドウモ捨テタ金利デモナイノハ、政府ノ保障力付イテ居ルカラ、確ニ貫ヘルダケバ信用ガアルデアアル、之ヲ若シ南滿鐵道ノ株トカ、或ハ東洋拓殖ノ株トカ、近クハ染料會社ノ株ノ如キニ較ブレバ、年利八朱、年利八朱デナクテ七朱デモ、現ニ此頃水力電氣鐵道會社ヲ始メレバ、年利五朱ノ株ヲ喜ンデ人ガ持ツ、年利五朱デモ喜ンデ

人ガ持ツト云フノハ、前途ニ望ガアル、南滿會社トカ、東洋拓殖、乃至若クハ染料會社ノ如キハ、或ハ大ニ擴張セラレテ、株券ガ尙ホ増加スルノ見込ガアル、或ハ利益ガ増加シテ配當ガ殖エテ來ルト云フ望ガアル、前途ニ望ガアルカラ、輕便鐵道、水力電氣ノ如キハ、五朱ノ利子デモ尙且ツ之ヲ持ツ者ガアル、之ヲ今回ノ此事業ハ年利八朱、ドンナニ藻掻イテモ驕イデモ年利八朱ヨリ多クハナイ、但シ減ラナイ、減ラナイトハ云ヒナガラ、重役ガ——之ヲ監督シテ行ク重役モ人間デアル、萬一間違ガナイトハ言ヘナイ、其重役個人ノ間違カラ會社ニ生ジタル損害ハ、會社株主ノ負擔トナラザルヲ得ナイ、多少危險ハ帶ビテ居ルケレドモ、唯ハ朱ニ決テ居ルト云フデアレテ、何等面白味モ樂ミモナイカラ、之ヲ南滿、東拓、染料、若クハ輕便鐵道トカ、水力電氣ノ如キ株式ト同視スル譯ニハ行カナイ、或ハ言ハシ、公債ヨリハ利子ガ宜シイ、其通りデアレケレドモ、公債ノ如キ便利ナ融通ノ品物トハナラナイ、郵便貯金ヨリハ甚シク利子ガ宜シイ、郵便貯金ハ旦ニ預ケテタニ出スコトガ出來ル、左様ナモノデヤナイ、是ガ決シテ今日ノ經濟狀態カラ考ヘ、金融ノ狀況カラ考ヘ、金利ガ高キニ失シテ居ルモノトハ言フコトガ出來ナイデアアル、唯、一ツ茲ニ殘ル所ノ問題ハ、開墾助成法案ニ於テハ六朱、此會社ノ補助契約ハ八朱デアル、六朱ヨリハ八朱ガ多イト云フコトヲ意味シテ居ラハ、ト見エテ町田君モ助成法案ハ六朱ダガ云々ト云フコトヲ言ハレ、町田君——君ノ如キ計算ニ達シテ御方ハ、計算ニ於テ目標ガ違ヘバ、即チ其答ハ違ウモノデアルト云フコトハ、御承知ニナラナケレバナラヌデアアル(拍手スル者アリ)開墾助成法案ハ、支出シタル實費ニ對シテ年々六朱、ソレヲ貫ウノガ開墾助成法案ノ取極メデアアル、支出シタル實費ノ總額、今回ノ會社補助ノ契約ハ資本ニ對シテ八朱、此資本ナルモノハ折返シ、折返シハ資本ハレタモノガ支出ノ總額デアアル、(笑聲起ル)之ヲ私ガ論ズルニ當テ、或ハドウダラウト御疑ノ御方ガアルト見エテ笑ッテ居ル、笑ッテ居ル御方ニ向テ餘リ數字ノ事ノ言テ居ルモノ、少シ倦キガ來ルデセウカラ、外ノ御話ヲ申上ゲル、小學校ニ於テ四年級、此生徒ニ向テ先生ガ日給一圓ノ職工ト時給十錢ノ職工ガアルガ、何方ガ餘計取ルカト云フ問題ヲ出シタ、一日ノ給金一圓ノ職工ト一時間ノ給金十錢ノ職工ガアルガ、何方ガ多ク取ルカト云フ問題ヲ出シタ、一番劣等ナ生徒答ヘテ曰ク、一圓ノ方ガ多イト言タ、稍、優等デ居ル方ノ生徒答ヘテ曰ク、十錢ガ多イト言タ、最モ優等デ生徒ガ、先生時給ノ職工ハ、日ニ何時間働キマスカト斯ウ言タ、日ニ九時間働ケバ一圓ヨリ少ナイケレドモ、日ニ一時間働ケバ一圓ヨリ多イトデアアル、徒ラニ數字ノ八ト六

トヲ較ベテハヨリ六ガ少ナイ、六ヨリ八ガ多イト云フコトヲ言フノハ、算術ヲ知ラヌ議論トハナケレバナラヌ(拍手起ル)左様ナ有様デアリマスカラ、御覽ナサイ(違ウ)「ト呼フ者アリ」唯今町田君ノ言ハレタ如ク、此開墾助成法案ニ依テ二十五万町歩ヲ成功スル(議題ガ違ウ)「何ガ分ルカ」ト呼フ者アリ、其補給ハ一年一朱デアアル、開墾助成法案ニ依テ二十五万町歩ヲ成功スル、其補給ハ一年六朱デアアル、然ルニ合計デ政府ノ豫算ハ四千九百萬圓ニナラザル、帝國開墾株式會社ハ同ジク二十五万町歩ヲ成功スル、其補給ノ利子ハ、始メカラ終リマデ悉ク利益ガ無カッタシテ三千六百萬圓デアアル、一方ハ二十五万町歩ヲ振ヘルニ三千萬圓ノ金ヲ以テ掛ル、政府カラ貰ヘルモノハ三千六百萬圓一方ハ年々六朱デ一ツツヤッテ行ク、其金高ハ政府ノ豫算ニ依レバ四千九百萬圓、何故ニ斯ンシテ六朱ノ方ガ八朱ヨリ多イト云フ答ガ出テ來ル、是ニ於テ日給十錢ノ時給十錢ノ差ヲ諸君ハ能ク知ラナケレバナルマイト思フ(駄目ノ價值ガ下ル)ト呼フ者アリ、諸君、會社ハ三千六百萬圓ノ金ヲ、年々八朱ヤルトスレバヤラナケレバナラヌケレドモ、會社ハ其目論見書ニ於テハ、僅ニ六百萬圓貰ヘバ後トハ貰ハヌデ済ムデアラウト言テ居ル、是ハ會社ノ言テ居ルコトデ、吾々ハ之ヲ當テニシナイケレドモ、豫算ハ即チ豫算デ、恐クハ六百萬圓内外ノ補給デ済ムト思ッテ居ル、是ハ何故デアリカト云ヘバ、即チ資本ニ對シテ補給デアアルカラ左様デアリマス、若シ此開墾株式會社ガ、助成法案ノ如ク支出シタル總額ニ向テ六朱ノ補助ヲ受ケルモノトシタナラバ、如何ナル計算トナリマスカ、開墾株式會社ノ目論見書ニハ、十五年間若手スル、其田畑ノ總計、其算出ノ資金總額ハ一億六千二百五十萬圓ヲ計上シテ居ル、此一億六千二百五十萬圓ニ對シテ、開墾助成法案ハ即チ六年若クハ七年掛ル、之ヲ六年ト見テ、六箇年間六朱ツ、ノ利子ヲ掛ケテ見タナラバ幾ラニナルカ、五千八百五十萬圓ノ金ヲヤラナケレバナラヌデアアル強テ狹イコトヲ言ヘバ、帝國開墾株式會社ガ斯様ナル會社ヲ立テ、斯様ナル補助ヲ貰フ、サウシテ契約ヲシテ命令ヲ受ケテ窮乏ニシテヤルヨリモ、開墾助成法案ニ依テドンドンヤッテ行キマスレバ、貰フベキ補助多クシテ、出來上ツタ品物ハ、自分勝手ニ自在ニ始末ガ出來ル、ソレニモ拘ラズ斯様ナルモノヲ拵ヘテ、幾ラカ國家ニ富豪ノ面目ヲ保テ見タイト云フノハ、近頃富豪トシテ上出來ナルコトデアルト、私ハ思ッテ居ルヤウナル次第デアリマス、然ルニ之ニ對シテ豫算委員會杯ニ於キマシテ、諸君カラ是ハ政府カラ勸メタカ、是ハ實業家カラ望ンダカト云フテ、甚ダ富豪々々ト云フ言葉ヲ頻リト言ッテ、前年ノ銅片拂下問題ト類似シタ問題デナイカト云フ如キ念慮ヲ聽ク人ニ起サシメタノハ、片腹痛キ次

第アアルト私ハ思フ(拍手起ル)諸君、開墾ハ一種ノ營利事業アリマス、開墾ハ一種ノ營利事業デアル、儲ケルガ爲メニヤル仕事デアル、何レ儲ケルガ爲メニヤル仕事デアルノヲ、開墾助成法案ハ一ツ、ニ打切テ、之ニ補助ヲヤルノデア、故ニ開墾助成法案ニ依テ開墾シテ者ノ中ニハ、大變ナ仕合ナ者モアリマセウ、開墾シタル土地ハ實費ノ倍ニモナリ三倍ニモナル、然モ其間ノ利子六朱ヲ貰テ、又甚ダ不仕合ノ人モアリマセウ、開墾シタル土地モ物ガ出来ナイ、物ガ出来ハ出来タケレドモ、丁度翌年水害ヲ流シテシマツト云フ不仕合ナ人モアリマセウ、是等ハ利子ノ補助額ヲ貰ツト云フコトガ、天カラ役ニ立タナイ、要スルニ開墾助成法案ハ一ツ一ツニ切テ補助スルノデアカラ、或者ハ仕合ヲ受ケ、或者ハ不仕合ヲ受ケル、帝國開墾株式會社ハ、始めカラ終リマデ二十五万町歩ヲ一纏メニシテ、之ニ對シテ補助ヲ加ヘルノデアカラ、或者ハ儲ケル、或者ハ損ヲスル、復タ或者ハ儲ケ、或者ハ損ヲスルコトヲ重ネテ行シテ、然ル後ニ所謂營利會社デアル、徒ラニ損ノ立ツ仕事ヲスルモノデナイ、結局儲カルト云フコトガアルカラ、年八朱ツ、ノ配當ヲ爲スダケノ補助ヲ貰テ居ケレドモ、僅ニ四年モ経テバ、六百万圓位ヲ貰ル、是ニ於テ乎八朱ノ補助ヲ爲ス場合ニ在テハ、缺損ヲ補填シテヤルト云フコトノ問題ガ生ジテ来ル、一ツ、ノ場合ニ缺損ヲ補填シテ来ルト云フ問題ハ生ジナイ、一方ニ缺損ヲ補填シテヤリ、一方ニハ補填シナイト云フコトハ、其間ニ於テ權衡ヲ失フハナイカト云フ反對、是ハ町田君カラ聴クナカタクケレドモ、サウ云フ反對ガアルトハ、唯今ノヤウナ譯デアカラ是亦權衡ヲ失フタモノデナイト云フコトハ、茲ニ明白ニシテ置クコトガ出来ルノデア、諸君、八朱ノ配當ヲ補給スルト云フコトハ、今日ノ經濟狀態、金利ノ有様カラ考ヘテ、決シテ厚キニ失シナイ、サウシテ其八朱ト六朱ト較ベテ、若クハ一方ハ損害ヲ補填シ、一方ハ損害ヲ補填シナイト云フコトガ、助成法案ハ、會社契約ノ間ニ何等權衡ヲ失フタモノデナイ、是ダケノ事ハ明瞭ニ御分リニナリマセウ、先刻町田君ガ御演説ヲ爲スデ、井上ノ説ハ今聴ケヌ、聴イタラ更ニ代テ論ズル積リデアルト仰シヤタカラ、願クハ明瞭ニ、左様ナラズト云フコトノ反證ヲ舉ゲテ戴キタイと思フノデアリマス、加之此五町歩以上ノモノハ、即チ助成法案ニ依ルノ開墾ハ、開墾シタル土地ハ自ラ所有スルコトガ出来ル、人ニ賣ルコトモ出来ル、又自分ニ所有シテ人ニ小作サスコトモ出来、勝手次第ニ其土地ノ處分ガ出来ル、會社ニ於テハ必ズ之ヲ自作農タラントスル者、或ハ縁故者、若クハ公共團體ニ賣拂ハナケレバナラナイ、然ラザレバ則チ之ヲ普通ニ賣ルトシテ、自ラ所持スルコトガ出来ナイ、開墾助成法案ニ

依ルモノハ、自由ニ土地ノ撰擇ヲ爲シ得ルノデア、此會社ハ左様ナ事ハ出来ナクテ、政府ノ命令ニ從ハナケレバナラヌモノデア、サウシテ政府ヨリ補助サレマシテ、補償セラレタル金高ニ至テハ、先刻モ申上ダタヤウナモノデア、此會社ラバ、此會社コソ助成法案ヨリハ、惡キモノナリト云フコトモ言ヒ得ルト思ヒマス、私ハ徒ラニ惡キモノナリト茲ニハ申シマセウ、願クハ斯様ナル會社ガ成立チ得レバ宜シイガト心配シテ居リマス、是非成立タセタイノデアリマスカラ、マア相當ニ申シテ置キタイと思ヒマス、諸君、果シテ然ラバ、第一ノ米麥ノ過多ニ至ルヲ怖レルト云フ問題ハ、既ニ杞憂ニ過ギナイ、第二ニ其補助ガ厚キニ失シ、就中兩者權衡ヲ失シテ来ルト云フ問題ハ、要スルニ算術ヲ知ラザル者ノ頭カラ言ダノデア、否ナ多少ノ理由ハ此ニ在ル、ソレハ會社ガ帝國開墾株式會社デアリマス、目論見書ト云フモノヲ印刷シテ、其目論見書ノ定款第三十五條ニハ斯様ナ事ガ書イデア、前條ノ配當金ガ拂込濟金額ニ對シテ年百分ノ八ノ割合ヲ超ユルトキハ其超過額ノ半額ハ特別準備金トシテ之ヲ積立テ其殘額ハ各株主ニ配當シ又其一部ヲ役員ノ賞與金又ハ後期繰越金トス、但シ其超過額ヨリ特別準備金ヲ控除シタル殘額ハ拂込済金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ヲ超ユルトキハ其超過額ハ之ヲ特別準備金トシテ積立ルモノトス、斯様ナ事ガ書イデア、言ヒ換ヘレバ損ヲシタトキハ、總テ損ヲ埋メテ貰テ八朱ノ配當ヲスル、愈、儲カタルラバ八朱ドコロデナイ、一割二分マデ配當スル、而モ利益ノ半分ハ積ンデ置イテ、後日何カノ時ニ之ヲ分配スル、斯ウ云フヤウナコトニシタイト云フコトガ定款ニ書イテ、印刷シマデシタルデアカラ、世ノ耳目ヲ以テ任ゼラレル新聞記者其他ノ人々ハ、早クモ此事ニ注意シテ、此開墾會社ノ要求ハ甚ダ多キニ過ギル、此開墾會社ニ對スル手當ハ、甚ダ厚キニ過グルト云フ議論ガ起ダノデアリマス、私共モ當時此印刷物ヲ見タ時ニハ、此案ニ反對シヤウト思タ、然ルニ政府ハ左様ナ事ヲ排斥シテ、八朱以上ノ配當ハサセナイ、若シ餘ル金ガアレバ、之ヲ重役ニ分タサセナイ、之ヲ積立テ、置クコトハサセナイ、即チ政府ノ補助シタル金ヲ返還セシメテ尙ホ餘アレバ、成功シクル田畑ノ値打ヲ安クサセル、況ヤ其田畑ヲ賣却サセルニハ、自分ノ思ヒ思ヒノ値段ヲ以テ賣ラシメナイ、開墾實費ノ五分マデヲ制限トシテ、其制限ニ於テ賣ラシメルト、斯ウ制限ヲ付ケタ、諸君ハ或ハ昨日豫算委員會ノ結果、一度何カノ御都合デ離席ヲシテ、今日豫算委員長ノ御報告ヲ御聴ニナラヌデ、其前ノ事ヲ以テ彼此言ウテ居ルノデナカラウカト私ハ思フヤウナ心持ガスル(拍手起ル)是ハ既ニ取消シテ、今日ノ政府ノ態度ニ立戻レバ、何所ニ權衡ヲ失シタモノガアル、何所ニ

厚キニ失スルモノガアルカト云フコトハ、恐クハ故ラニ反對スル意思ナキ諸君ニハ、明瞭ニ諒解セラレタコトデアラウト思フ(拍手起ル)諸君、最後ニ——最後ニ——最後ニト云フノハ、即チ第三番目ノ議論今日地方農家ノ利益ヲ圖ラントスルナラバ、何ガ必要デアルカト云フナラバ、自作農ノ數ヲ殖ス、即チ中流以下ノ農民ヲシテ、安堵ヲ得セシムルト云フコトガ大切ナ事デア、第二ニ何ガ必要デアルカト云ヘバ、自治團體町村、是等町村ヲシテ相當ナル基本財産ヲ得セシメ、相當ナル收入ヲ得セシムルト云フコトガ、是ガ一番大切ナ事デア、地方農民ノ便益ヲ圖リ、地方農家ノ改良ヲ圖ル、勿論金融機關モ設ケナケレバナラヌ、勿論農事ノ改良ヲサセテ行カケレバナラヌ、彼等ニ對シテ又教育ヲ十分ニシテヤラナケレバナラヌト云フコトハ、分リ切テ居ルケレドモ、就中公共團體ト云フモノハ、相當ノ財産ノ餘裕アラシメ、殊ニ自作農ヲ多クシテ、農民ニ安堵ノ場所ヲ得セシムルト云フコトハ、目下第一ノ急務デアルト云フコトハ分リ切テ居ル、若シ此開墾問題ハ取りモ直サズ食糧問題デア、食糧サヘ得ラレ、便宜シイノデア、其他ノモノハ顧ミルニ及バヌト言ハレルナラバ兎モ角モ、開墾問題ハ單ニ食糧問題デナイ、即チ富源ノ開發デア、富源ヲ開發シテ、自ラ富源ニ近ヅキ得ザル者ヲシテ近ヅカウメルト云フノガ、開墾獎勵ノ本旨ナリトセバ、自作農ヲ進メルコト、公共團體ヲシテ財產ノ餘裕ヲ得セシムルト云フコトハ、自ラ開墾其ノモノト相次イテ起ル問題ト言ハナケレバナラヌ、然ルニ昨日モ議論ヲ聴クコトヲ得マセシタルケレドモ、隣リニ列ンデ居ル鈴木梅四郎君、私ハ此鈴木梅四郎君ニ對シテ、從前ヨリ敬意ヲ拂テ居リマスケレドモ、兎モ角モ今日ニ至ルマデ所謂社會政策ニ没頭シテ、中流以下ノ農民ト云ハズ、商ト云ハズ、エト云ハズ、中流以下ノ人民、就中無資無産ノ人々ヲ救済スルト云フコトニ殆ド日ニ夜ヲ次イデ、所謂實生活主義ヲ實行セラレテ居ルノハ、感心シテ居ルノデアリマス、故ニ私ハ言ツタ、貴下ガ若シ開墾ト云フ問題ヲ、社會政策ト云フコトハ、上ニ引較ベテ御考下サイマスナラバ、假シ開墾助成法案ニハ反對スルトモ、此案ニハ賛成ナサル筈デア、斯ウ私ハ言ツタ、中、賛成ハ爲サラス、要スルニ失禮ナガラ數字ガ御分リニナラヌト云フコトヲ申上ゲル外ナイノデア、(其通リト呼フ者アリ)何故ト云フナラバ、五町歩以上ノ開墾ヲスルト云フコトハ、尋常ニ様ノ者ニハ出来マセヌ、今ヤ將ニ自作農トナリタイ、人間ト生レテ鋤クヲ擔イデ、朝三夜出デ、タニ歸ルノデアケレドモ、切メテハ生キテ居ル内ニ、自分ノ名義ノ土地ガ五段歩デモ一町歩デモ有テ見タイト云フ位ノ人間デ、五町歩以上ノ開墾ヲスル資力ハゴザイマセヌ、又町村ニ依ッテハ色々ノ狀態ガアリマスケレドモ、此町

村ニハ五十町歩或ハ七十町歩ノ荒地ガアル、森林ガアルト云フガ如キ町村ニ行テハ、五十町歩七十町歩ト云フ土地ヲ開墾スル資金ヲ調達スルカハ、其町村其公共團體ニハゴザイマセヌ、斯様ナル場合ニ於テ、帝國開墾株式會社ガ大ナル資本ヲ以テ開墾ヲシタモノヲ、恰モ開墾助成法ニ依ルト同一ノ直段デ以テ、前五段歩要ルナラヤラウ、七段要ルナラヤラウ、此村デ之ヲ全部持ツト云フナラバ、持ツシテヤラウト云フコトガアツタナラバ、五町歩以上ノ者ハ開墾助成法ノ恩惠ニ與リ得ルモ、五町歩以下ノ者ハ、此會社ニ居ラザレバ其恩惠ニ與カレナイ(拍手起ル)然ルニ徒ラニ富豪ノ發起デアルカラト云フ言葉ニ拘泥シテ、鈴木君ガ之ニ反對サレルニ至テハ、私ハ極ク分リ易イ一例ヲ申上ゲル、丁度昨年モ米ガ高クテ、其時ニ米ヲ安ク賣ルガ宜シイト云フノデ、志アル者ハ多少ノ義捐ヲシタ、異多クモ、天皇陛下ヨリ御賜金ガアリ、政府ニハ臨時ノ支出ヲ爲シタ、金持ハ皆ナ多ク少ノ金ヲ義捐シタ、所ガ是ハ村ノ名ヲ申シテ宜シイガ、或縣ノ或郡ノ或一村ニ於テハ、吾々ハ天子様ノ御金ヤ政府ノ金ハ貰フケレドモ、何モ金持ノ金ヲ貰ハヌデ宜シイ、ソレ程困テ居ラヌト云フテ、之ヲ拒絕シタ處ガアルト云フコトヲ知テ居ル(然リ)ト呼フ者アリ之ヲ拒絕シタ其者ノ精神ハ兎モ角デアルケレドモ、苟モ義捐ト名ノ付イテ救助ニスベキ金ガ集ツタナラバ、其金ガ何處カラ集マラウガ、救助ニスル目的ガ達スレバ宜イデヤナイカ、救助ノ目的ニ足ラヌモノナラバ、如何ナル金トモイケナイケレドモ、救助ノ目的ニ足ルモノナラバ、金持ノ金トモイケナイケレドモ、之ヲ救フガ宜シイノデアル、然ルニ此會社ハ富豪ガ目論シタノデアルカラ、小農若クハ地方團體ノ利益ニハナラヌデアラウト、一モ二モナク排斥シテ、折角永年ヤテ居ラシヤッタ社會政策實行ニ聊カタリトモ(八朱々々)「八朱ハドウシタ」

「マダ分ラナイノダ」ト呼フ者アリ社會政策ノ上ニ於テ如何カト云フ考ヲ起サシメルノハ、鈴木君ニ不似合ナヤウナ心持ガスルノデアリマスガ、恐ラク此點ニ就テハ、鈴木君ヨリ後カラ聴クコトヲ得ルコトガ出來ヤウト思フテ、之ヲ樂ミニシテ居ルノデアリマス、諸君、斯様ニシテ小農ガ土地ヲ得、斯様ニシテ公共團體ガ土地ヲ得、其土地ハ一時ニ金ヲ出サヌデモ得ラレノデ、低利資金ヲ借りテ得ラレトシタナラバ、實ニ此案コン、地方救済ニ最モ大切ナルモノデアルト申スコトガ出來ルノデ、反對論者ガ忘レタ所ノ良點、反對論者ガ言ハナイケレドモ、反對論者ノ氣付カイ所ノ此案ノ最良ナル點ハ、是デ自ラ御了解ヲ得タコト、思フノデアリマス、諸君、私ハ一昨年歐洲戰爭ノ真最中ニ於テ、一ノ印刷物ヲ拵テ、諸君ノ御手許ニモ差上ゲタコトガアル、要スルニ此際大ナル公債ヲ募テ、サウシテ置イテ戰後必ズ來ルベキ所ノ反動ガ來タ時分ニハ、其公債ノ金ヲ出シテ、鐵道ヲ架ケルナリ、治水事業ヲ行ルナリ、其他港灣改良可ナリ、道路ノ建設可ナリ、各種ノ事業ヲ戰後ニ起シテ、其來ル反動ヲ幾ラカ防グガ宜カラウト云フ事ヲ論ジタコトガアル、今原内閣ガ出來テ以來ノ全體ノ施政ヲ見ルノニ、即チ原君ノ在野ノ時ニ長ク唱ヘラレタルガ如キ積極政策ヲ實行シテ、既ニ今マデニ於テ成立シタル所ノ豫算ニ於テ諸君ガ了解セラル、ガ如ク、鐵道ノ建築ガ大ニ増加シタ、道路、港灣、治水ノ改良モ亦大ニ増加シタ、其他各種ノ事業ヲ積極的ニ企テタ、之ニ依テ地方ガ現ニ米デモ安クナレバ、地方ガ不景氣ヲ増スノデアラウケレドモ、其不景氣ヲ幾ラカ抑ヘルコトガ出來ラデアラウト、私ハ原君ガ從來積極の方針ヲ唱ヘラレ、原内閣ノ積極の方針ガ、國家施政ノ上ニ最モ適シテ居ルガ爲メニ、之ヲ專ラ實行スルト云フ(拍手起ル)此點ニ於テ甚ダ私ハ原君ノ内閣ヲ謳歌スル者デアリ、況ヤ此内閣ハ苟モ左様ナル事ヲシテ、戰後ノ不景氣ヲ防グニ足ル機會アレバ、之ヲ捉ヘテ不景氣ヲ防グントシテ、即チ開墾助成法案ノ成立シテ未ダ日淺キニ、早クモ此帝國開墾株式會社ノ補助契約ノ案ヲ出シテ、更ニ此處彼處ニ幾百幾十ノ人ガ這入テ仕事ヲシテ、地方ヲ賑ハスノ手段ヲ執ルト云フ事ニ就テハ、獨リ開墾其ノモノニ對シテ此内閣ガ能ク要領ヲ得テ居ルノミナラズ、國家ノ大勢ニ通ジ社會ノ氣運ニ通ジテ爲スベキ仕事ヲ爲スベキ時ニ於テ企テ、居ルモノデアルト云フコトヲ、爰ニ斷言シテ憚ラヌモノデアリマス(拍手起ル)是ダケヲ以テ本案賛成ノ理由ト致シマス

○議長(大岡育造君) 鈴木梅四郎君

○議長(大岡育造君) 鈴木梅四郎君

○議長(大岡育造君) 鈴木梅四郎君

○議長(大岡育造君) 鈴木梅四郎君

○鈴木梅四郎君 諸君、開墾會社ノ問題ニ就キマシテ、立論ノ基礎ニ於テハ多少ノ差ハゴザイマスル點モゴザイマスルガ、大體ニ於テ私ト所見ヲ同シウスル町田君ガ此案ニ對シテ、政府ノ矛盾、衝突、其他有ユル失態ヲ來シテ、議場ニ一種ノ感ヲ與ヘマシタ事ニ就テハ、遺憾ナク御話ニナツテ居リマスルカラ、私ハ此點ニ就テ爰ニ繰返シテ申スコトハ止シマス、唯ニ此案ノ賛成者デアル所ノ井上君ガ長々ト雄辯ヲ揮ハレマシタ、ソレヲ謹聴致シテ居リマシタガ、此井上君ノ御議論ニ對シテモ、大シタ駁撃ヲ加ヘル程ノ値打ガ無イト私ハ信ジテ居リマス「ヒヤ」(生意氣言フナ)「分ラヌナ」ト呼フ者アリ此點モ餘リ深クハ論ジマセヌ(大ニ論ジロ)ト呼フ者アリ私ハ本案ニ賛成ヲ致シマスコトノ出來ナイ根本的ノ理由ヲ、一二申上ゲテ見タイト思フ、政府ガ開墾助成法案ヲ提出致シマシテ、此案ニ依テ米麥ノ供給ハ近キ

二三十年ノ間ハ、之ニ依テ確ニ米麥ノ調節ヲ全ウスルコトガ出來ル、所謂國民ノ食糧問題ヲ解決シ得ルト云フ、責任ヲ持テ提出サレタル助成法案——其助成法案ト云フモノガ、町田君ノ御説明ノ如ク、殆ド根本的ト申シテモ宜シイ位ナ大修正ガ出來マシテハ、衆議院ヲ通過シテ居ルノデアリマスル、ソコデ此案ニ就キマシテハ、各派一致シテ賛成致シテ居ルノハ、即チ政府ノ提案ノ趣意ニ對シ、更ニヨリ多クノ望ヲ繋ケテ修正ヲシテ、是ナラバ大丈夫デアラウト云フノデ、是ガ出來テ居ルノデアリマスルガ、此案ニ對シマシテ政府モ同意ヲシテ置キナガラ、後トカラ開墾會社ナルモノヲ造ルコトノ提案ヲシテ、之ニ優渥ナル補助ヲ與ヘルト云フコトニナツタガ爲メニ、折角ノ此開墾助成法案ト云フモノニ、非常ナ打撃ヲ與フルト云フコトノ結果ヲ生ズルト云フコトヲ、第一ニ私ハ說明致シタイノデアリマス(謹聴)ト呼フ者アリ(御承知ノ如ク開墾會社ハ、政府ノ提案ト較ベマスルト云フト、大分斧鉞ヲ加ヘラレマシテ、形ガ變テ居リマス、併ナガラ此會社ノ特色ト申シマスモノハ、何所ニアルカト申シマスレバ、如何ニ營業上ニ損失ヲ致シマシテモ、資本金ヲ損ヌスルコトハ絕對ニ無イト云フ大安心ヲ持テ居ル、ソレカラ第二ニハ其資本金ノ損失——資本金以上ノ損失ガ有ツタスレバ、ソレニ對シテモ何等ノ不安心ノ無イ上ニ、必ズ年八朱ノ利益配當ヲ得ラレト云フコトデアリマス、ソレカラ此會社ニハ競爭者ガ無イ、私ガ質問シマスルト、モウ此會社ノ外ニハ、是ト同一ノ目的ヲ以テ會社ヲ拵ヘルト云フ人ガアツデモ許サヌ、絕對ニ此開墾事業ト云フモノヲ、專賣ニスルコトガ出來ルト云フ事デアリマス、此三ツガ先ヅ主ナル特典ノ箇條デアリマス、即チ之レ有ルガ爲メニ、折角吾々ガ心血ヲ注ギマシテ修正ヲ致シマシタ開墾助成法案ナルモノハ、非常ナ實行上ニ妨害トナツテ、殆ド目的ヲ達スルコトハ出來ナイコトニナルノデアリ、何故カト申シマス、若シ此會社ガアリマセヌナラバ、吾々ノ修正致シマシタル開墾助成法案ニ依リマシテ、開墾シテ見込ノアルベキ土地ハ必ズ事業ニ著手サレ、又之ヲ助ケテ世間ノ資本家ガ之ニ金融ヲ與ヘ、若クハ其他ノ便宜ヲ與ヘテ、十分ニ此開墾ノ事ヲ助ケルト云フコトハ、自然ニ起ツテ來ルノデアリマスルガ、特殊ノ性質ヲ帶ビタ特權ヲ持ダ所ノ開墾會社ト云フモノガ出來タ爲メニ、左様ナモノハ最早出來ナクナツタ、起テ來ナクナツタ(ソノ事ハアリマセヌ)ト呼フ者アリ是ハ所謂計算ニ明カナル者ハ能ク分ル、斯様ナ者ガアツタヤルト云フ事ニナリマスレバ、決シテ資本家ト云フ者ハ、所謂開墾助成法案ニ依テヤル者ニ大ナル力ヲ與ヘマセヌ、ソレカラ又何故ソレガ與ヘナイカト云ヒマスレバ、此助成法案ニ依テ若シ開墾會社ガ無ケレバ、大仕掛ニ隨分大キナ開墾ヲ企テ、所ガソレガ斯様ナ優渥ナ

ヲ奈何センヤデアリマス(拍手起ル)ソレハ何故ニ斯様ナ疑
感ヲ起サセルカト申シマスルト、此開墾會社ノ成立ニ於テ
頗ル辻褄ノ合ハナイ他人ヲシテ疑ハシムル事柄ガ澤山アル、
第一ハ政府ハ此助成法案ト開墾會社ト兩々相俟テ、此
開墾ヲ十分ニサセルノデアルト云フコトヲ聲明シテ居リマス
ルガ、之ヲ裏切ル事實ハ澤山アル、何カ之ヲ裏切ツテ居リマス
開墾助成法案ヲ出シマシタ政府ノ案ハ、最初ハ年六朱ノ
利息ヲ貸シテ之ヲ助ケルト云フニ過ギナイ、二十年間――
成功後二十年間ニ之ヲ返サシムルト云フノデアル、補給ヲ
與ヘルト云フノデアリナイ、唯、之ヲ助ケテ、成功ノ上ニハ返却
セシムルト云フノ原案デアッタ、ソレガ衆議院ノ修正ニ依ツテ、
年六朱ヲ與ヘテモ返スニ及バズト云フコトニナツノデアリマ
スルカラ、非常ニ根本ノ二案ハ改テアルコトハ、先刻申シ通
リデアリマスルガ、斯様ナ案ヲ出シテ、サウルト此案ノ委員會
ニ於キマシテ、眞面目ニ委員ノ中カラ政府當局者ニ向ツテ、
國產獎勵會若クハ東北振興會ト云フヤウナ所カラ、斯様ナ
會社ガ出來ルト云フヤウナ事ヲ承テ居ルガ、此事業ト主要
ナ關係ガアルガ、其邊ノ消息ハ如何テアルカ、説明ヲ得タイ
ト云フ質問ヲ委員カラシテ居ル、所ガ之ニ對シテ政府ノ當
局者ハ何ト答ヘタカ、左様ナモノハ殆ド存ゼスト云フ答ヲ
シテ居ル、何故ニ兩々相俟デ開墾ヲヤルト云フナラバ、此案
ヲ出シタ時分ニ、實ハ斯ウ云フ計畫モアルト云フコトヲ言ヒ
得ナイノデアアルカ、ソレヲ強テ隱スガ如クニシテ居ツトハ何
デアアルカ、而モ其後餘リ時日ヲ經ザル間ニ、總理大臣官
邸ニ天下ノ富豪ヲ集メラレテ、此問題ノ話ノアタ時分ニ
ハ、定款ナルモノガ確ニモウ印刷シテ出來上ツテ、チャント
發起人モ定マテアタト云フ事實ガ茲ニ明カデアリマス、何
故ニ此衆議院ニ出スベキ其案ヲ、此委員カラ質問シタ時分
ニ隱シテ置イテ、何カ其委員會デソレヲ報告ヲシ、知ラセテ
ハ、都合ガ惡イカノ如キ態度ヲ執ラレタカ、ソレガ今日ニ至
ルマデ不思議ニ堪ヘナイ、左様ナ態度ヲ執ッテ居ラレル、サウ

シテ此案が出テ天下ノ非常ナ非難ヲ受ケ、殊ニ與黨ノ間カラモ非常ナ反對的ノ質問杯モ出テ參リ、八釜敷ナデカラ色々ナ説明ヲサレテ、兩々相俟テヤルノデアルト云フヤウナ御話モアリマシタガ、要スルニ是等ノ事實ヲ舉ゲテ見マシテモ、甚ダ此會社ノ成立ニ付テ、ドウモ世人ヲシテ疑ハシムル點ガアリノデアリマス、私共ハ決シテ左様ナ事ヲ信ズルノデアアルマセヌ、併ナガラ歴代ノ内閣ガ此所謂富豪階級金持ト接觸ヲ保テ、其金持ノ御機嫌ヲ取ルト云フコトヲ、一ツノ務ノ如クニシテ居リマシタノ過去ノ實際デアアル、桂内閣ハ其最モ甚シイモノデ、大隈内閣ガ之ニ負ケズニ又富豪ノ歡心政策ヲ執ツタ、寺内内閣モ同様ナ事ヲシタ、併シ政友會内閣、此政黨ヲ基礎トシテ居ル所ノ所謂純政黨内閣ハ、眞逆ニ左様ナ事ハアルマイト私共ハ信ジテ居ラノデアリマス、此開墾會社ノ設立ニ方リマシテ、日本一ノ富豪ダケヲ集メテ、而シテ是ダケニ許シタ、此開墾事業ヲ、外ノ者ニハ許サズト云フヤウナ事ヲ計畫サレルニ至リマシテ、マダ此儀ガ所謂政黨内閣ガ矢張金權政治ヲ行フ所ノ、所謂日本ノ政治家ノ舊套ヲ脱シ得ザル所ノ内閣デアアルカト云フ、疑ヲ起サザルヲ得ヌノデアアル、是ハ確ニ斯様ナ疑ハ私バカリデナクシテ、ドウモ天下ノ人ハ、之ヲ信セントスル傾向ガアルノデアリマス、此點ニ於キマシテ、私ハ本案ハ政治上ノ純理カラ申シマシテ、今日ノ時勢ニ斯様ナ計畫ト云フモノハ、全ク相反シタル所ノ計畫デアアル、天下ノ人心ニ一種ノ疑ヲ起サシムル所ノ惡政策デアルト云フコトヲ、斷言スルニ憚ラヌノデアリマス(拍手起ル)井上角五郎君カラ挑戰ヲ受ケマシテゴザイマスカラ、一言酬ヒテ置キマス、井上角五郎君ハ長ト雄辯ヲ揮ハレマシテ、私ハ謹聽致シテ居リマシタガ、要スルニ私ハ井上君ノ議論ニ反駁ヲ加ヘル必要ハナイト云フコトヲ先刻申シマシタガ、ソレハ實際必要ガ無い、何故ナラバ吾々ノ此案ヲ否認スル根本ノ理由ニ於テハ、何等燭レテ居ラナイ、唯揚足ノ議論ヲ爲サレテ、サウシテ此案ノ辯護ニ汲々トシテ居ラレタニ過ギナイト云フカラデアアル、其一例ヲ舉ゲテ見マスルト云フト開墾會社ヲ保護シタイト云フ爲メニデス、同ジ事實ヲ二様ニ使分ラシテ居ラシヤル、警告ヲシテ此會社ニ專横ヲ許サズト云フ爲メニ、若クハ不測ノ損害ヲ起サシメナイ爲メニト云フノデ、此會社ガ許可ヲ得テ開墾スルト云フニハ十分ナ意味ヲシテ、危イ所ハヤラセナイヤウニ一ノ箇條ヲ設ケタト云フデ、此事ニ就テハ餘程意氣揚々御得意ニ説明サレテ居ル、是ガ一ツノ事實、所ガ之ヲ會社ガ失策ヲシナイ、損ヲシナイ爲メニ、斯様ニ注意スルト云フ此方ニ一ツ之ヲ御使ニナデ、又今度ハ反對ニ之ヲ御使ニナデ居ラシヤル、ドウ使テ居ラシヤルカト云フト、開墾助成法ニ依ル開墾ト、此會社ノ開墾トハ、大變違フト云フ此時

ノ話ニ之ヲ特ニ使テ居ラシヤル、ドウ云フ風ニ使テ居ラシヤルカト云ヘバ、開墾會社ハ自由ニ選擇スルコトハ出來ナイ、此開墾助成法案ニ依テ開墾スル者ハ、好キナ所ヲ擇取ラシヤルコトガ出來ルガ、開墾會社ハ政府ノ檢定ヲ得テ、サウシテ自由ナ事ガ出來ヌ、斯ウ云フ同ジ材料ヲ彼方此方ニ反對ノ意味ニ使用サレテ居ル、是ハ即チ唯、政府ノ辯護ヲスル爲メニ汲々トシテ居ラレル一ツノ何ヨリノ證據デアアル、斯様ナ譯デアリマスルカラ、私ハ井上君ノ長ト御述ニナリマシタ其說ハ、辯護トシテハ如何ニモ巧妙デアリマスケレドモ、論理ト致シマシテハ、其ダ薄弱ノモノデアルト云フコトヲ唯、申シテ置キマスル、更ニ私ニ向テ、私が社會政策ノ事ニ就テ心配ヲシテ居ルガ、其心配ヲシテ居ル點ハ贊成ダガ、此案ニ贊成シナイノハ社會政策ニ云フ御話デアリマシタガ、是ハ大ナル見當違デアリマス、是ハ井上君ガ社會政策ノ何物タルヲ、能ク御研究ニナタ上ノコトデアラウト存ジマスガ、私ノ信ズル所ニ依リマシテハ、所謂今日ノ社會政策ナルモノハ、斯様ナ富豪ノミニ特權ヲ與ヘタ其會社ヲ拵ヘタモノヲ、恩惠ノデモアリマセヌケレドモ、先ヅ形カラ申シマスルト、恩惠ノニ安ク賣テ貰フト云フヤウナコトハ、必シモ所謂眞ノ社會政策デアアルカ否カト云フコトハ、近代ノ政治意義ヲ了解シテ居ル者ハ能ク分リマス、凡ソ社會政策ヲ主トシテ致シマスルナラバ、公平、機會均等、斯ウ云フ立派ナモノニ根據シテ行カナクテハナラヌノデアリマス、デ私ハ實ハ此會社ガ、果シテ井上君ノ言ハル通りニ、社會政策ノ一部分ヲ助ケルコトガ出來ルカ否カト云フコトヲ大ニ疑テ居リマスルカラ、此點ニ就テハ、私ハ社會政策ニハ熱心デアリマスルケレドモ、此案ニ反對スルヲ以テ、社會政策ニ微塵モ害ヲ與ヘテ居ラヌ、否、斯ノ如キ時勢遲レノ怪物ヲ拵ヘルト云フコトニ反對スルノガ、眞ノ社會政策ノ意義ニ適ウテ居ルモノト私ハ確信シテ居ルノデゴザイマスカラ(拍手起ル)此點ヲ一言申シマス

〔拍手起ル〕

〔副議長(濱田國松君) 吉植庄一郎君

〔吉植庄一郎君登壇〕

〔拍手起ル〕

○吉植庄一郎君 段々憲政會ノ町田君ノ御演說、並ニ國民黨ノ鈴木君ノ御演說ヲ拜聽致シマシタガ、町田君ノ御演說ニ對シテハ、同僚井上君ノ明細正確ナル反駁ガアリマシタノデ、ソレニ格別反對黨ノ方カラモ、*「ノウー」*ノ聲ガ出ナカッタノデアリマスルカラ、是ハモウ御承認ニナタモノト考ヘマス(ノウー)ト呼フ者アリ)餘リ追究スルコトハ感心致シマセヌカラ、其方ハソレトシテ置イテ、國民黨ノ代表者タル鈴木君ノ御演說ハ、井上君ガ少シク豫備ノ議論ヲシ

テ居リマシタガ、是ハ大分鈴木君カラ反對ノ御意見ガアリマシタカラ、大要鈴木君ノ御議論ニ對シテ、自分ノ反對ノ意味ヲ申シテ見タイ、併シ追究セヌトハ申シマシテモ、時ニハ憲政會ノ方ノ議論ニモ論及スル場合ガアルカモ知レマセヌカラ、是モ御斷リヲ致シテ置キマス、鈴木君ハ平生吾々ハ同君ノ該博ナル學識ト、其雄辯ニ多大ノ敬意ヲ拂ッテ居リマシテ、本日ノ如キ、殊ニ同君獨得ノ壇上トモ謂フベキ問題ニ對シテハ、深遠博達ナル御雄辯ガアルコト、實ハ先刻來謹聽致シテ居ラノデアリマス、平日トハ違テ極メテ簡單デアリマシテ、而シテ甚ダ遺憾ナガラ不明瞭デアラノデアリマス、鈴木君ノ反對ノ要旨ハ三點ニ分レテ居ル、若シ私ノ聽キマシタノニ誤ガアリマスレバ、後トデ御訂シテ願ヒタイノデアリマス、第一ノ反對ノ理由ハ本案ガ成立テバ、即チ帝國開墾株式會社ナルモノガ此儘ニ通過スルナラバ、過日本會ヲ通過シタル所ノ開墾助成法ニ大打撃ヲ與ヘル、ソレガ宜クナイ、第二ノ反對ノ理由ハ、時代思潮トカ申シマシテ、機會均等ト云フ近來ノ思潮ニ反ツカラ、宜シクナイト云フ御主張ノヤウニ拜聽致シマシタ、第三ハ政府ガ曩ニ開墾助成法案ヲ提出スル場合ニ、何等帝國開墾株式會社ヲ補助スル積リノアルコトヲ言ハナイデ、サウシテ助成法案ノ通過後ニ突如トシテ之ヲ出シタ爲メニ、天下ニ種々ノ疑惑ヲ招イテ居ル、殊ニ富豪ニ阿ッテ、金權政治ヲ爲スモノデアルト云フ非難ヲ招クト云フ、斯様ニ拾上ゲテ見マス、此三ツニ歸著サレルヤウニ考ヘラレマス

〔副議長濱田國松君議長席ヲ退キ議長大岡育造君復席〕

○吉植庄一郎君 此第一ノ反對理由ノ、助成法ニ大打撃ヲ與ヘルト云フ其理由ヲ更ニ二ツニ御分ケニナデ、此會社以外ニ同ジヤウナ會社ヲ拵ヘヤウトシテモ出來ナイ、即チ助成法ニ依テ事業ヲ計畫セントスル者、若クハ之ニ資本ヲ供給セント欲スル者ガアル場合ニ於テモ、此帝國開墾株式會社ト云フ龐大ナ會社ガ出來ル爲メニ、其成立ヲ妨ゲル虞ガアルカノヤウニ申サレテ居ル、併シ此御論ノ殆ド理由トスルニ足ラヌコトハ、先刻井上君ガ數字上ニ於テ詳シク述べラレタ、即チ單ニ會社若クハ個人ガ、政府ヨリ一段歩ノ土地ヲ開墾センガ爲メニ受ケンツル金額ヲ計上シテ見マスルト、開墾助成法ニ依レバ、一段歩ニ對シテ十九圓八十錢ノ補助ヲ受ケラル、ニ反シテ、帝國開墾株式會社ノ方ニ依レバ、一段歩ニ對シテ十五圓デアアル、會社ノ聲明スル如クスルナラバ、僅ニ三圓デアアル、併シ十五箇年全部打通シテ保護スルトシテモ、其總額ハ八十五圓ニ過ギナイ、一段歩當リ保護ノ少ナイコト四圓八十錢デアアル、此開墾會社ナルモノハ、助成法ニ依ル所ノ保護ヨリモ、一段歩ニ付

テ、四圓八十錢安イ保護ヲ受ケテ満足シテ居ルノデアリマスカラ、開墾助成法ニ依ッテ個人ガ政府ヨリ補助ヲ受ケントスルナラバ、其爲メニ打撃ヲ被ルト云フコトハ、殊ニ數字ニ明カナル所ノ同君トシテ、如何ナル論理ノ矛盾デアルカ、私ハ了解ニ苦シムノデアリマス、勿論是ハ假想ノ議論デアリマス、同君ノ議論ハ推測ノ議論デアリマス、併シ推測ハ必ズ數理ヲ以テ推サナケレバナラス、現實ノ事實ヲ捉ヘタ議論ニ非ズシテ推斷ヲスル以上ニハ、正確ナル數字ノ根柢ヨリ論斷シナケレバナラヌガ、同君ノ推論ハ漫然タル推論デ數字ニ基礎ヲ置カナイノデアリマス、斯ノ如キ反對ノ御議論ハ、吾々根柢ニ於テ尊敬ノ價值ヲ認メルコトガ出來ナイノデアリマス、殊ニ私カラ更ニ進ンデ之ヲ論ゼシムルナラバ、開墾會社ニ依ラズシテ、開墾助成法ノ方ノ補助ノ金額ガ多イノデアルカラ、斯ノ如キ會社ノ力ニ依ッテ多數ノ田畑ノ出來ルト云フコトハ、國家全體ノ利益デアリマス、五町歩以上ノ土地ヲ開墾スル者ハ中流以上ノ人デアル、即チ資本階級デアッテ、勞働階級庶民階級デアリマセヌ、此者ニ對シテ一段歩ニ付テ十九圓八十錢補助ヲシテ居ル、却テ帝國開墾株式會社ナルモノハ、一段歩ニ付十五圓ニ過ギナイノデアル、是ガ何デ富豪援助ニ當ルデアリマセウカ、富豪ノ保護ニドウシテナルノデアリマセウカ、富豪ト云フ文字ハ、庶民階級ニ比較スレバ、同君ノ所謂庶民階級ト云フモノノ比之ヲ比較スルナラバ、五町歩以上ノ土地ノ開墾ヲスル者ハ、矢張或富豪デアリマス、是ハ平素ノ同君ノ御議論ニ對シテ、ドウモ了解ニ苦シムノデアリマス、第二ノ機會均等云云ノ御論デアリマスガ、國際聯盟ノ御議論デモナサル場合ニハ、所謂機會均等ハ近代ノ思潮トシテ御尤デアリマスガ、吾々不學ニシテ、此帝國開墾會社ガ是非他ニヤリタイ者ガフッテモヤラセヌト云フコトガ、機會均等ト云フ時代思想ニ反クト云フコトハ、餘リニ鷄ノ割クニ牛刀ヲ御用ニナリ過ギハセヌカ、元來鈴木君モ亦憲政會ノ町田君モ、彼ノ會社ハ一割二分以上ノ配當モ出來ル、又其儲ケタモノヲ積立チ、置イテ、重役ノ配當モ出來ルト云フ會社ノ希望デアッタ所ノ、頗ル會社ニ有利ノ條件ヲ具備シテ居タモノヲ其儘ニ御覽ニナッテ居タ、是ガ頭ニ先入シテ居ル、サウシテ此壇上ニ井上君ガ明言サレタ如ク、十五箇年ヲ通ジテ如何ニ會社ガ利益ガアッテモ、年八朱以上ノ配當ハ絕對ニ許サヌト云フ此命令條件ニ依ッテ、此會社ハ八朱ノ十五箇年ノ公債ト化シ去タコトヲ聞却セラレテ居ルノデアルト思フ、年八朱ノ十五箇年ノ公債ト少シモ性質ノ變ラヌ此資本ニ對シテハ、鈴木君自身モ喜シデサウ云フモノニ御投資ニナルグラウト私ハ思フ、現ニ日本染料株式會社ノ保護ハ、是ハ當

ニ士著ノ希望ヲ與ヘルト云フコトハ、是ハ政治家トシテ、凡ソ何派ヲ問ハズ、悉ク一致スル問題デアラウト思フ、諸君ハ助成法案ニ於テ、五十町歩ト云フ原案ヲ五町歩ニ引下グラレト云フコトモ、稍、サウ云フ意味ヲ加味サレテ居タト記憶シマス、併シシテハ尙ホ徹底シナイ、五町歩以上ハ前刻私が申シマシタ通り、比較的富豪デアル、此富豪階級ニ援助ヲ與ヘテ置イテ、五段百姓モ一緒デ宜イト云フノデハ、此多クノ最大多數ノ是等ノ地方ノ農民ニ對シテ、何等ノ恩恵ヲ及ボスコトハ出來ナイデハナイカ、助成法ノ之ニ依テ出來ナイガ爲メニ此案ヲ出スノデアル、之ニ依テシテ以下ノ者ニ二十箇年ノ間ノ低利資金ヲ以テ、此會社ヲ拵ヘタ所ノ土地ヲ或ハ一町歩、或ハ二町歩、其人員ニ應ジ、其勞働力ニ應ジテ之ヲ分配シテ、將ニ流離セントスル所ノ全國ノ多イ農民ヲシテ、土著ノ安心ヲ與ヘ、生活ノ安定ヲ圖ルト云フコトハ、是ガ——社會政策ト云フモノニ色ミアルガ、色ミ項目ハアルケレドモ——サウ云フモノモ少ナクトモ、其中ノ大ナル項目ト爲サナケレバナラス、鈴木君ノ社會政策ガ、果シテ斯ノ如キ問題ヲ除外シタル社會政策ナリトスレバ、吾々ハ此社會政策ニ對シテハ、絕對ニ反對ヲスルノデアリマス（拍手起ル）斯ノ如キ問題ヲ鈴木君ハ、何ガ故ニ此場合ニ欣シク先シテ御賛成ニナラナカッタカト云フト、私ノ推測スル所ニ依レバ、平素潔癖ナル所ノ同君ハ、此富豪階級、若クハ資本家階級ニ向テ保護スルコトハイケナイ、金權政治ニ反對スルト云フ趣意ニ取ラレテ、富豪ノ輩ニ斯ウ云フ事ヲサセルノハ、イケナイト云フ議論ヲ致サレタノデアリマセウ、若シ此筆法ヲ以テスルナラバ、同君ガ其豐富ナル財源ヲ開イテ、中民階級ノ爲メニ今日新聞ヲ拵ヘ、色ミ運動ヲシテ種々ノ援助ヲ與ヘテ居ラルルコトモ亦宜シクナイト思フ、同君ハ我國富豪ノ一人デアリマス、併ナガラ富豪ノ口ニシタ社會政策ハ社會政策ニ非ズ、富豪ノ手ニ依ル社會政策ハ社會政策ニ非ズト云フノハ、堅白同異ノ言ニ非ラズシテ何ゾヤ（拍手起ル）斯ウ議論ヲ見マスル、此會社ハ名コソ富豪ト云フ名前ニナテ居ルケレドモ、其手ヲ通シテ全國多數ノ細民ヲ地主タラシムル所ノ、堅實ナル社會政策ヲ徹底スル爲メニナテ居ルノデアリマス、是ト五町歩以下ノ開墾ヲ爲スト云フ者ト、兩方相俟テ此政策ヲ遂行セントスルノデアデ、即チ先刻町田君ガ、原總理大臣ハ此案ヲ提出スルニ當テ、豫テ考ヘテ居タ事デアルト言ハレタ、他ノ大臣ハサウハ言ハナカッタガ、原總理大臣ハ豫テ考ヘテ居タ事デアルト言ハレタト云フコトハ、即チ一面ニ於テハ、資本家階級ヲ援ケテ土地ノ開墾ヲ爲サシメル、一面ニハ此機關ヲ通ジテ全國多數ノ農民、小民ヲシテ自作農業家タラシメテ、一ツノ徹底セル社會政策ノ實行ヲスル、

是デ兩々相俟テ行ク、即チ豫テ考ヘテ居タト云フノハ是レデアル、何モ之ヲ怪シム所モ無ケレバ、不思議モ無い、是ガ後ニナツタ、前ニナツタ爲メニ之ニ議論ノ生ズルト云フコトハ、私ノ甚ダ了解ニ苦シム所デアリマス、最後ニ町田君ニ一言致シテ此壇ヲ下ラント欲スルノデアリマスガ、憲政會ノ諸君ハ、染料ノ問題——染料ノ事ダケデモ、政黨内閣ノ時分ニモ、是ト同様ナル八朱ノ補給ヲ御出シニナテ居ルト思ヒマス、然ラバ全國ノ食糧問題、此食糧問題ニ就テハ、諸君モ非常ニ御心配ニナテ居ルデアリマセウカ、現ニ前内閣時代ニ於テ、僅カ半年許リノ間ニ米ノ不足シタ爲メニ、ドレダケノ金ヲ使テ居リマス、前後ヲ通ジ二千五百萬圓、國庫ハ之ニ對シテ米價調節費ヲ費シテ居リマス、僅カ半年ノ間ニデモ、米價調節ト云フ問題カ事實起リ、即チ食糧ノ調節ガ起レバ、二千五百萬圓ト云フ金ヲ煙ニシテ居ルノデアル、ソレデモ十分米價調節ハ出來ナカッタ、然ラバ此會社ノ三千六百萬圓、十五箇年全部ヲ補助シテ見タ所デ、ソレデニ二十五萬町歩出來テソレニ依テ食糧ノ調節ヲ圖ルコトノ補助トナルナラバ、諸君ハ困タ時ノ二千五百萬圓ハ吝ムニ足ラズトシテ、永久ニ善良ナル效果ヲ有スル所ノ此確實ナル政策ニ向テ、反對スルト云フ理由ハ無イト私ハ思フ、是デ私ハ此原案ノ通過セラレンコトヲ希望致シマス（拍手起ル）

○岩崎勳君 議長

○議長（大岡育造君） 岩崎勳君

○岩崎勳君 討論終結ノ動議ヲ提出致シマス

○議長（大岡育造君） 討論終結ノ動議ハ先決問題デアリマス、討論終結ノ動議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

起立者 多數

○議長（大岡育造君） 多數デアリマス、仍テ討論ハ終結セラレマシタ——唯今ヨリ決テ採リマス、委員長ノ報告セラレタル中、農商務省所管臨時部第一款產業獎勵費金三十萬圓、第十八項帝國開墾株式會社補助金十三萬圓、之ヲ削除スルト云フ意味デアルト思ヒマスガ間違ヒアリマセウカ——此修正ニ成規ノ賛成ガアリマス

○議長（大岡育造君） 成規ノ賛成ハアルト認メマス、仍テ此修正ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

起立者 少數

○議長（大岡育造君） 少數デアリマス、委員長ノ報告ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

起立者 多數

○議長（大岡育造君） 多數デアリマス、委員長報告ノ通過

リニ可決致シマシタ——日程第二、和氣神社昇格ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、小橋藻三衛君

第二 和氣神社昇格ニ關スル建議案（小橋藻三衛君外八名提出）

和氣神社昇格ニ關スル建議

和氣清麻呂公ノ忠烈天日ヲ貫キ經綸青史ヲ照スハ固ヨリ贅言ヲ須タス其ノ姉法均尼公ノ忠誠仁慈モ亦天下後世ノ敬仰措カサル所ナリ然ルニ其ノ墳墓ノ地ニ於テ公ノ一族ヲ祭レル岡山縣和氣郡藤野村和氣神社ヲ永ク村社ノ列ニ置クハ世道人心ヲ鼓舞スル所以ノ道ニ非ス政府ハ宜シク速ニ本社ヲ別格官幣社ニ昇格シ法均尼公ヲ合祀シ以テ神靈ヲ慰メ民心ヲ滿タサシメラレムコトヲ望ム

右建議ス

○天春文衛君 吾々ハ農會法ノ委員會ヲ開キタイト思ヒマス

○議長（大岡育造君） 許可致シマス

○小林源藏君 朝鮮輕便鐵道補助法ノ委員會ヲ開キタイト思ヒマス

○議長（大岡育造君） 許可致シマス

○小橋藻三衛君登壇

（拍手起ル）

○小橋藻三衛君 和氣公ノ事蹟ニ就テハ、今更嗽々述ベル必要ハゴザイマセウ、唯、簡單ニ一言ヲ致シテ置キタイト存ジマスルノハ、諸君御承知ノ通りニ、此當時宇佐八幡ノ神官ガ、我が光輝アル國體ト、我が此尊嚴ナル歴史ヲモ破壊致スベキ、恐ロシイ事柄ヲ奏上致シタトキニ當リマシテ、時ノ政府ハ此重大ナル問題ヲ如何ニ取扱タカト申シマスレバ、時ノ道鏡ノ權威ハ朝ノ内外ヲ傾ケマシテ、廟堂ノ大官鉅公ハ、悉ク一身ノ安全ヲ計ルコトニ是レ急ニ致シマシテ、全ク其道鏡ノ權威ニ媚ビテ、誰一人起テ此恐ルベキ計畫ヲ遮リ、之ヲ防グト云フコトニ努力ヲ致シタ者ハ無イノデアリマス、此時ニ勅命ニ此和氣公ニ下リマシテ、今一應神慮ヲ伺ヘト云フコトデアリマシタ、所ガ道鏡ハ極烈ナル脅迫ト、非常ナル甘言トヲ以テ、兩面ヨリ之ニ壓迫ヲ加ヘタノデアリマス、此時ノ我國ノ狀態ト云フモノハ、洵ニ累卵ノ危サト申シマスルカ、千鈞一髮ノ危機ト申シマスルカ、實ニ恐ルベキ時機デアッタノデアリマス、然ルニ此和氣公ハ非常ナル大決心ヲ以テ、我が大和魂ノ大權化トナデ、非常ニ貢獻ヲ致シタノデアリマス、即チ所謂天柱ハ折ケ地維ハ將ニ缺ケントスル時ニ當テ、公ハ一人ノ力ヲ以テ、斷然トシテ所謂五色ノ石ヲ鍊リ、鰲ノ足ヲ斷タノデアリマス、我國ノ歴

史ニ於テ忠臣ノ鑑ト稱セラル、人ハ幾人モアリマスケレドモ、時ニ於テ、事ニ於テ、處ニ於テ、此和氣公ノ如キ大ナル忠烈、大ナル偉勳ト云フモノハ、我が三千年來ノ歴史ニ於テ、未ダ曾テ見ザル所デアリマス、(拍手起ル)其姉法均尼公ニ於テモ、御承知ノ通りニ此公ノ忠烈ヲ御助ニナリマシテ、又一面ニハ孤兒ヲ澤山收容サレマシテ、即チ後世ノ孤兒院ノ濫觴トモ申スベキ、慈仁ナル厚德ヲ當時ニ施サレタデアリマス、斯ル此大忠臣ノ人ガ、其郷里ニ於テ如何ニ取扱ハレテ居ルカト申シマスレバ、此和氣公ノ祖先以來ノ廟食セラレテ居ルカト申シマスレバ、一ツノ村社ト致シマシテ、寒烟蔓草ノ中ニ封ジラレテ居ルデアリマス、志アル者ヲシテ低御願望、無量ノ感慨ニ打タレルノ有様デアリマス、故ニ吾々ハ第三十七帝國議會ニ於テ、此神社昇格ノ提案ヲ致シマシテ、満場一致ノ御賛成ヲ得タデアリマスガ、今日尙ホ村社ノ列ニ立テ、官幣社トモ國幣社トモナラナイデアリマス、若シモ一社一神デアルト云フ事ノ爲メニ、既ニ京都ニ護王神社ノアル以上ハ、同一祭神ヲ、外ニ於テ官國幣社トスルノ要無シト云フコトデアルト致シマスレバ、既ニ管公ノ如キハ、各所ニ官幣社トシテ祀ラレテ居ルト云フ例モアリマス、又若シモ左様デナクシテ、考證ガ如何デアルト云フコトデゴザリマスレバ、今日ノ官國幣社ト致シマシテモ、之ヲ學說上ヨリ見マスレバ、其考證ニ於テ、頗ル議スベキモノガ無シトセスト考ヘルデアリマス、若シ又京都ニ既ニ護王神社ノアル以上ハ、斷ジテ是ガ其郷里ニ於テ祭ル事ガ不都合デアルト云フコトデアリマスレバ、和氣公ノ祖先ヲ釋ナマスレバ、御承知ノ通りニ人皇第十一代垂仁天皇ノ御子鐸石別命三世ノ孫ノ弟彦王ハ、神功皇后ノ征韓ノ役ニ隨ハレマシテ、當時武略ニ於テ、又其勇氣ニ於テ非常ニ秀絶サレテ居リマシテ、征韓ノ役ニ於テハ、絶大ノ戰績ヲ舉ゲラレタデアリマス、神功皇后御凱旋ノ時ニ當リマシテハ、是亦歴史上御承知ノ通りニ、鷹坂、忍熊ノ二皇子ハ確ニ逆謀ヲ企テ、サウシテ播磨ニ兵ヲ出シテ神功皇后ヲ邀撃ヲ致シタデアリマス、此時ニ神功皇后ハ數多ノ群臣ノ中ヨリ、最も軍略ニ優レ、最も武勇ニ長ケタ人ヲ選拔致サレマシテ、即チ弟彦王ヲ差向ケテ、播磨備前ノ間ニ關所ヲ構ヘテ、遂ニ此二皇子ノ亂ヲ平ゲラレタデアリマス、ソコデ此功ニ依テ備前國ノ磐梨ノ縣、即チ藤野郷ヲ、永ク弟彦王ニ賜タデアリマス、ソレ以來歷代子孫繁榮ヲ致サレテ、和氣公ノ時代ニ至リタデアリマス、此永イ間ノ歴史ヲ此地ニ持テ居リ、其祖先以來ノ墳墓ガ此地ニ在リ、サウシテ茲ニ和氣神社ガアルデアリマス、若シ一神一社デナクテレバナラヌト云フ當局ノ御意見デアルト致シマスレバ、斯ノ如キ國家ニ大功勞アル、歴史上ニ光輝アル弟彦王ハ、何

レノ地ニ於テモ未ダ曾テ祀ラレテハ居ナイデアリマス、斯ル國家ノ大忠臣ガ祀ラザルノ神トシテ御隠レニナッテ居ルト云フコトハ、吾々日本人ノ祖先ヲ崇敬致シ、歴史ヲ尊重スル國民性ニ於テハ、甚ダ遺憾ナ事デアルト考ヘルデアリマス、願クハ此弟彦王ヲ主神ト致シテ、官幣社ニ之ヲ祀ラレマシテ、之ニ合祀ヲ致サレマシテ、和氣公及廣虫公ヲ祀ラレルト云フコトニ相成リマスレバ、當局ノ一社一神ト云フ御趣意ニ適フコトカトモ考ヘルデアリマス、斯ル趣意デアリマスガ故ニ、願クハ満場一致ノ御賛成ヲ以テ、速カニ此建議ノ可決セラレンコトヲ御願スル次第デアリマス

〔拍手起ル〕

○岩崎勳君 本案ハ、朝鮮神社ニ素盞鳴男奉祀ニ關スル建議案ノ委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(大岡育造君) 御異議アリマセヌカ

○議長(大岡育造君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(大岡育造君) 御異議ガ無ケレバ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(大岡育造君) 日程第三、朝鮮及臺灣ノ產米増殖ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、提出者牧山耕藏君

第三 朝鮮及臺灣ノ產米増殖ニ關スル建議案

(牧山耕藏君外十名提出)

朝鮮及臺灣ノ產米増殖ニ關スル建議

我が國食糧問題ノ根本的解決ハ國民生活ノ基礎ヲ確立シ國家生存ノ安定ヲ期スル上ニ於テ最喫緊重要ノ急務タラサルヘカラス今や我が國ノ主要食料ハ國內ノ生産全部ヲ以テスルモ遠ク其ノ需要ヲ充スコト能ハス而モ毎年夥シキ人口ノ増殖ハ年ト共ニ益其ノ不足ヲ増大シ三十年後ノ產米不足高ハ實ニ三千二百萬石ニ達スヘク應サニ之レ國民生活ノ一大脅威タラスムハアラス政府ハ之ニ對シ開墾助成法ヲ制定シ以テ其ノ解決ヲ期セムトスト雖憾ムラハ其ノ範圍僅ニ日本内地ニ限ラレ彼ノ天與ノ米產地トシテ將來多大ノ餘力ヲ有スル朝鮮及臺灣ノ地ニ及ハス即チ是等植民地ニ於ケル灌溉開墾事業及金肥ノ施用獎勵等各種積極的施設經營ハ直ニ以テ我が國食糧問題ノ解決ニ絶大ノ效果アリト認ムルヲ以テ政府ハ速ニ是ニ關スル方策ヲ樹テ本建議ノ主旨ヲ達成セラレムコトヲ望ム

〔牧山耕藏君登壇〕

(拍手起ル)

○牧山耕藏君 朝鮮及臺灣ノ產米増殖ニ關スル建議案提出ノ理由ヲ、簡單ニ申述ベタイト思ヒマス、今回ノ歐洲大戰ハ、世界ノ有ユル方面ニ向テ大ナル波動ヲ與ヘタノデ

アリマスルガ、就中産業政策ニ就キマシテ、自給自足ノ必要ナルコトヲ自覺セシメ、特ニ食糧ノ獨立ガ、國家生存ノ上ニ於テ極メテ緊要ナルコトヲ痛切ニ吾人ニ教ヘタデアリマス我が帝國ニ於ケル食糧ハ、主要食糧タル米麥ハ、國內ニ產出ヲ致シマスル全部ヲ以テシマシテモ、尙ホ遠ク其需要ヲ充タスコトガ出來ナイデアリマス、而シテ年々臺灣及朝鮮ノ餘剩米ヲ移入致シマスル外ニ、二百萬石ノ外國米ヲ輸入致シテ居ルト云フ有様デアリマス、而シテ尙ホ我が同胞ハ年々非常ナル膨脹ヲ致シマシテ、推定ノ増加ニ依リマスレバ、十年ノ後ニハ八百六十四萬八千人ヲ増加致シマス、之ニ伴フ所ノ米ノ消費量増加ハ、實ニ八百八十二萬一千八百六十一萬二千石、之ニ伴フ所ノ米ノ消費量増加ハ一千八百九十八萬四千石、更ニ三十年後ニ於キマシテハ三千九萬三千人、之ニ伴フ米ノ消費量増加ハ三千六十九萬五千石ヲ算スルデアリマス、然ル時ハ現在ノ不足及ビ將來ノ不足増加ヲ合計致シマスレバ、十年後ニ於テハ一千萬石二十年後ニ於テハ二千萬石、三十年後ニ於テハ三千万石二百萬石ノ不足ヲ生ズルデアリマス、是實ニ國民生活ノ一大脅威デアリマシテ、是ガ解決ニ就テハ、朝野ノ政治家ガ最も苦心ヲ致シテ居ルデアリマス、政府ハ是ガ對應策ヲシテ開墾助成法ヲ制定シテ、向フ十五箇年ヲ期シ、對應策ヲシテ二十五萬町歩、水田ノミデ十二萬五千町歩ノ開墾ヲ實現セント企テ、更ニ其實行ヲ確實ナラシメガ爲メ、資本金三千萬圓ノ帝國開墾株式會社ノ創立ニ盡力セラレ、唯今之ニ要スル補給三十萬圓ニ對シテ、本院ハ協賛ヲ與ヘタノデアリマス、是ハ洵ニ機宜ニ適セル企劃トシテ、國家ノ爲メニ慶ブベキ事デアリマス、併ナガラ此計畫ハ唯、單ニ日本内地ノミニ實施セラル、モノデアリマシテ臺灣及朝鮮ノ地ニ及バズトハ、政府當局者ノ言明ヲ致シテ居ル所デアリマス、朝鮮及臺灣ハ、本員ガ此處デ更メテ申スマデモナク天與ノ米產地デアリマシテ、改良及開墾ノ餘地ガ頗ル多イデアリマスルカラ、此方面ニ向テ、母國ト通ジテ此開墾助成ノ計畫ヲ立テラレナカッタハ、洵ニ遺憾ニ存スル次第デアリマス、大正六年度ニ於キマスル臺灣ノ米作付面積ハ約四十七萬町歩デアリマシテ、其收穫高ハ四百八十三萬石ヲ算シテ居リマス、臺灣ニハ糖業政策ト云フヤウナ重大ナ問題ガアリマスルノデ、此點モ大ニ考慮シナケレバナラヌデアリマスルガ、兎モ角一年二回ノ米作ガ出來ルト云フヤウナ所デアリマシテ、尙ホ開墾灌漑ノ餘地モ少カラヌデアリマス、灌漑設備ヲ施スベキ餘地ハ、尙ホ十萬町歩モアルト云フコトデアリマス、然ルニ大正八年度ノ臺灣總督府豫算ヲ見マシテモ、此產米増殖ニ關スル計畫ハ一向見當ラナイ

ノデアリマス、更ニ朝鮮ハ海ニ天與ノ米產地デアリマシテ、同時ニ我國唯一ノ溫帶植民地デアリマス、朝鮮ニハ現在水田ノ面積ガ百五十万町歩有ルデアリマス、此中ニ灌溉設備ノ施サレマシタノハ、僅ニ三十万町歩ニ過ギヌデアリマシテ、殘ル百二十万町歩ト云フモノハ、未ダ灌溉ガ施サレテナイ、所謂乾田デアリテ、天水ヲ待テ收穫ヲ期スルデアリマス、内地ニ於キマシテハ水田總面積ノ八割ハ既ニ灌溉設備ガ有ルデアリマス、朝鮮ニハ二割シカ灌溉ガ施サレテ居ラヌデアリマス、ソレデ朝鮮内地トハ、丁度反對ノ狀態ニ相成テ居ルデアリマス、此百二十万町歩ノ八割、即チ九十万町歩ノ灌溉面積ヲ増加スルコトガ出來マシテ、之ニ一反步ニ付テハ斗ノ增收ヲ得ルト致シマスレバ、實ニ七百二十万石ノ增收ヲ得ルコトガ出來ルデアリマス、尙ホ朝鮮ニ於テハ河邊荒蕪地七万町歩、干渴地ガ二十一万町歩、畑地ガ二百九十万町歩、山林原野ノ可耕地ガ七十二万町歩、合計三百九十万町歩ノ内、水田ト爲シ得ベキ所ハ五十万町歩ノ廣イ面積ガ有ルデアリマス、之ヲ今一段歩ノ平均收穫ヲ一石五斗ト假定致シマスレバ、七百五十万石ノ產米増加ノ爲シ得ルデアリマス、之ニ前申シマシタ所ノ灌溉ニ依ル增收七百二十万石ヲ加算致シマスレバ、實ニ千四百七十万石ノ產米増殖ヲ望ミ得ルデアリマス、併シハ農事改良其他肥料ノ普及等ニ依テ、此成績ヲ得ラレルト思フデアリマス、尙ホ朝鮮ガ天與ノ米產地トシテ、唯一ノ溫帶植民地トシテ、又其計畫ニ對スル餘地ノ廣大ナルニ於テ、我國ノ產米増殖計畫上重要ナル地歩ヲ占メテ居ルコト云フコトハ、之ニ依テモ知ルベキデアリマス、右ノ理由ヲ以テ、本員等ハ開墾助成案ノ趣旨ガ、植民地ニ向テ擴充セラレンコトヲ希フ者デアリマス、尙ホ朝鮮總督府ハ大正八年度ノ豫算ニ、水利事業組合補助費トシテ十五万圓ヲ計上サレテ居リマス、是ハ向フ十箇年ニ亙テ、十六万六千町歩ノ水利計畫ヲ助成スル、其一端ガ現レタデアリマス、先刻モ申シマシタヤウニ水利ノミデナイ、尙ホ開墾ノ餘地ガ非常ニアル、又水利ト開墾トハ離レカザラザ關係ヲ有テ居ルデアリマス、ソレデ灌溉事業ト水利事業トハ、之ヲ併セテ致サナレバ徹底致サナイデアリマス、尙ホ朝鮮ニハ肥料ノ使用ヲ獎勵致シマスレバ、茲ニ數百萬石ノ增收ヲ得ルコトガ出來ルデアリマス、之ヲ要スルニ政府ハ產米増殖ノ方策ニ就キマシテ、多大ノ心血ヲ注イデ居ラレルト云フコトハ認メマスレドモ、其計畫ガ唯、單ニ日本内地ノミニ限ラレマシテ、天與ノ米產地デアリ朝鮮及臺灣ニ是ガ及バナカッタ云フコトハ、龍ヲ畫キテ未ダ其睛ヲ點セザルノ憾ガアルデアリマス、ソレデ本員建議ノ要旨ハ、内地

植民地ヲ通ジテ徹底セル產米増殖ノ計畫ヲ立テ、食糧問題ノ解決ヲ完フセンコトヲ切望シテ止マザル次第デアリマス、尙ホ詳細ノ點ニ至リマシテハ、精シイ調査書類ヲ持テ居リマス、何レ委員會ニ於テ陳述シタイト思フデアリマス、提案ノ要旨ハ以上述べマシタ通りデアリマス、ドウゾ滿堂ノ諸君ニ於カレマシテモ、本案ニ御同意アラントウ切ニ希望シテ已ミマセヌ(拍手起ル)

○岩崎勳君 本案ハ議長指名、九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(大岡育造君) 御異議ハアリマセヌカ

○議長(大岡育造君) 御異議無ケレバ、議長指名九名ノ委員ニ付託スルニ決シマシタ

○議長(大岡育造君) 御異議無ケレバ、議長指名九名ノ委員ニ付託スルニ決シマシタ

第四 新聞紙法改正ニ關スル建議案(松田源治君外十二名提出)

新聞紙法改正ニ關スル建議案
現行新聞紙法ハ時勢ノ進退ニ適應セヌ政府ハ速ニ之カ改正案ヲ起草シ次期議會ニ提出セラレムコトヲ望ム
右建議ス

〔松田源治君登壇〕
〔拍手起ル〕

○松田源治君 諸君、本案ハ各派聯合ノ提出デアリマシテ、私ヨリ提案ノ趣旨ヲ説明致スデアリマス、言論ノ自由ハ憲法ノ保障スル所デアリマス、併シ我國ノ憲法ニ於キマシテハ、言論ノ自由ハ法律ノ範圍内ニ於テ之ヲ許シタルデアリマス、故ニ新聞紙法ト云フ法律ニ於テ嚴重ナル取締ヲシ、制裁等ヲ加ヘマスレバ、憲法ノ認メテ居ル自由ハ、新聞紙法ニ於テ全ク破壊サレルデアリマス、而シテ新聞紙法ハ憲法附屬ノ法律デアリマス、即チ憲法ニ於テ言論ノ自由ハ此法律ニ依ルト云フコトニナッテ居ル、恰モ衆議院議員ノ選舉ハ衆議院議員選舉法ニ依ルト云フコトニナッテ居ルノト同ジク、衆議院議員選舉法ガ重大デアレバ、新聞紙法モ同一ニ重大ナル所ノ法律デアリマス、故ニ私ハ此會期切迫ノ場合デアリマス、少々提案ノ趣旨ヲ述べマシテ、諸君ノ御清聴ヲ汚シタイト思フデアリマス、言論ノ自由ハ素ヨリ尊重シナレバナラヌ併シ言論ノ自由ニ就テ是ト相對的ノモノハ新聞紙ノ責任デアリマス、新聞紙ガ責任ヲ重シナレバ、言論ノ自由ヲ極端ニ開放スルコトハ出來ナイデアリマス、然ルニ日本ノ新聞紙ハ、全部トハ申シマセヌ、全部トハ申シマセヌガ、無責任ノ記事ヲ掲載スル新聞ガアルデアリマス、ソレデ私ハ新聞社ニ望ム、憲法ノ保障シテ居

ル所ノ言論ノ自由ヲ得ントスラバ、先ヅ自ラ責任ノ重大ナルコトヲ自覺サレンコトヲ望ムデアアル、此點ニ於テハ英國ノ新聞紙等ハ頗ル責任ノ重大ナルコトヲ感ジテ居ルデアアル、諸君モ御承デアリマセウ、歐洲ノ大戰ガ開カレタ時ニ、英國ニ於キマシテ臨時原稿檢閱局ト云フモノガ出來タデアリマス、軍事ニ關スル行動ハ、總テ此臨時原稿檢閱局ノ檢閱ヲ受ケルコトニナッタルデアアル、檢閱局ハ多忙デアリマス、今日出シタル所ノ新聞ニ載セル原稿ハ明日デナケレバ返テ來ナイ、是デハ新聞紙ハ大變掲載ニ不便ヲ感ズルト云フコトデ、集會ヲ開イテ如何ニスルカト云フコトヲ研究セントシタルデアリマス、然ルニ其内ノ一人ガ、若シモ之ヲ檢閱ヲ受ケズシテ出シタ時分ニ於テハ、制裁ガ英國ノ法規ニ於テ有ルデアアルカ無イデアアルカト云フコトガ問題ニナッタルデアアル、調査ノ結果、ソレハ無イデアアル、即チ臨時原稿檢閱局ノ檢閱ヲ受ケズシテ出シタモノ、制裁ハ無イデアアル、無イケレドモ英國ノ新聞紙ハ面目ニ掛ケテモ國家ノ害ニナル事ハシナイデアアルト云フコトヲ申シタ、即チ新聞紙ノ面目名譽ト云フコトガ、言論ノ自由ヲ得ルニ付テ、新聞紙ノ大ニ重シナレバナラヌ事デアアルト私ハ考ヘルデアアル、而シテ日本ノ新聞界ノ現狀ヲ見マスレバ、私ハ決シテ政府ノ取締ガ可ナリトハ申シマセヌ、矢張藩閥政治ノ專制政治カラ傳來ノ取締ヲシテ居ル、新聞紙法モ傳來ノ記載サレタル條項ガ數多アルデアリマス、日ク安寧秩序ヲ紊亂シ、日ク朝憲ノ紊亂、日ク政體ノ變改、斯ウ云フコトハ皆藩閥政府以來傳來ノ文字デアアル、而シテ藩閥政府ガ新聞紙ヲ取締ルヤ、峻嚴ナル法律ノ苛酷ナル所ノ刑罰ヲ以テ臨ンダデアリマス、新聞紙ノ方ニ於テモ其法律ヲ濫ルコトヲ考ヘタルデアアル、ソレガ即チ新聞紙ノ編輯人ノ犧牲ノ人物ヲ拵ヘル、活版ノ職工ヲ以テ編輯人トシ、實際ノ編輯人ハ何等責任ガ無イト云フヤウナコトニ、新聞紙ガ法律ヲ濫テ爲シタルデアアル、此事ガ矢張今日ノ新聞紙ニモ殘テ居ル、全部トハ申シマセヌケレドモ、或ル新聞紙ハ此傳來ノ慣行ヲ受ケテ居ル、政府ノ刑罰、政府ノ法律上ノ制裁ヲ免レントスルガ爲メニ、活版ノ職工其他無責任ナル者ヲ編輯人トシテ、其責任ヲ免レントスルノ態度ヲ取ッテ居ルト云フコトハ、是ハ言論ノ自由ヲ許スコトニ就テ、頗ル私ハ遺憾ナリト考ヘルデアリマス、拍手起リ「ヒヤ」「ト呼フ者アリ」故ニ新聞紙法ヲ改正セントスラバ、政府モ言論ヲ尊重スル、新聞紙モ國家社會ニ影響スルコトガ重大ナリト云フコトヲ考ヘ、自己ノ責任ニ鑑ミテ、責任ヲ負フ所ノ責任ヲ負擔スル所ノ實ヲ明カニスルト云フコトガ、是ガ新聞紙法改正ノ第一ノ根本義ニナラナレバナラヌト私ハ考ヘルデアリマス、拍手起リ「ヒヤ」「ト呼フ者ア

害スル事項、第五ガ名譽ヲ毀損スル事項、第六ガ公判ニ付スル以前ニ於テ豫審判事ノ特定シタル豫審ノ内容並ニ檢事ノ差止メタル捜査事項、此六ツハ矢張言論ノ自由ヲ如何ニ尊重致シマシテモ、今日ノ日本ノ現狀ニ於テハ制限シナケレバナラス事ト考ヘルノデアリマス、而シテ個人ノ名譽ヲ毀損スル事項ニ付テハ、新聞紙ニ於テ例外ヲ設ケル必要ガアルト思フ、即チ新聞紙ガ惡意ニ出デズ、専ラ公益ノ爲メニスル場合ニ於テハ、新聞紙ニ事實ノ證明ヲ許シテ其證明ガ立ッタ時分ニ於テハ無罪ヲ宣告シ、損害賠償モ通ガレル、此六ツノ制限ガ今日ノ日本ノ現狀ニ於テハ必要デアリマシテ、其他ノ制限ハ私ハ必要ハ無イト考ヘル、之ヲ見ヨリ我國ノ新聞紙——現行ノ新聞紙ニ適用シテ論ジテ見タイト考ヘマス、第一ニ現行ノ新聞紙法ニ於キマシテハ、安寧秩序ヲ紊亂シ風俗ヲ害スル事項ヲ記載シタル時分ニ於テハ、二ツノ制裁ガアル、一ツノ制裁ハ司法的ノ制裁デアリマス、一ツノ制裁ガ行政的ノ制裁デアリマス、司法的ノ制裁ハ刑罰ヲ以テ之ヲ制裁シ、行政ノ制裁ハ安寧秩序ヲ紊亂シ風俗ヲ害スル所ノ記事ヲ記載シタル新聞紙ハ、内務大臣ガ絕對ノ專權ヲ以テ其發賣頒布ヲ禁止致シマシテ、其新聞ヲ差押ヘルコトガ出來ルト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、然ルニ安寧秩序ヲ紊亂シタル云フヤウナル所ノ標準ノ不明ナル文字ヲ以テ言論ノ自由ヲ尊重シナイト云フコトハ、立憲治下ニ於テ私ハ許スベカラザル事デアラウト思フ、私ハ此安寧秩序ヲ紊亂スト云フコトヲ政府ニ具體化シテ貰ヒタイ、私ノ申スヤウニ列記のニシテ貰ヒタイ、列記のニシテ、其以外ニハ制裁ヲ與ヘナイト云フコトニシナケレバ、新聞紙ハ筆ヲ執ルニ付テ標準ガ無い、先達テマデ——先達テデアアリマセヌガ、近キ過去ニ於テ例ガアル、官僚内閣ニ於テハ政府ト國家ト云フモノヲ混同致シテ居ル、國家ニ何等ノ害ガ無クテモ政府ニ害ガアル事ハ、安寧秩序ヲ紊亂スト云テ、直チニ告發シ、其新聞紙ノ發賣頒布ヲ禁止、差押ヘル譯ニナルデハアリマセヌカ、近キ過去ノ内閣ニ於テ此例ハ澤山アル、或ハ内閣ニ於テハ、事實ノ報道ヲ以テ安寧秩序ヲ紊亂スモノナリトシテ此處分ヲヤツタモノモアリマス、此安寧秩序ヲ紊亂スト云フコトハ、先程申シタヤウニ、藩閥專制政治ノ遺物ト申シテ差支ナイ、之ヲ具體的ニスル、政府ハ私ノ述べタル所ノ六項ノ制限以外ニ尙ホアルト云フコトナレバ、一二ハ加ヘテモ差支ナイ、國家ニ害ガアリ、國體ニ害ガアル事項ハ、新聞社ガ——新聞記者ガ放縱ニ之ヲ論ズト云フコトナラバ、私ガ今市シタル所ノ六項ガ、七項ニナツテモ宜ケレバ、八項ニナツテモ宜シイ、要ハ安寧秩序ト云フヤウナコトハ今ノ裁判官ノ認定、行政官ノ認定ニ依リテ、如何ニモナルト云フコトヲ今日存在セシメテ置クハ、立憲法治下ニ於テ許スベ

會ニ出タル請願ト謂フコトハ出來ナイノデ、罰セラレズニ濟ンダ、議會ニ出サナイ前ノ請願書ハ、新聞雜誌ニ掲載シテモ差支ナイ、議會ニ出シタル後ノ請願ト雖モ、之ヲ新聞紙ニ掲載スルコトヲ、刑罰ヲ以テ之ニ臨ムト云フコトハ、私ハ時代後レノ法律デアル、又主務官廳ニ出ル所ノ訴願書ヲ揭スル專制政治ヲ官僚政治ヲ擁護スルヤ云々規定ハ、立憲政治ハ秘密ヲ貴ビ、立憲政治ハ公開ヲ貴ブデアル、然ルニ斯ル規定ヲ殘スト云フコトハ、官僚政治ヲ保護シテ、立憲政治ノ發達ヲ阻碍スルト云フコトニナルノデアリマスカラ、斯ル規定ハ斷然新聞紙法ヨリ削除シテ、言論ノ自由ヲ尊重サレンコトヲ望ムノデアリマス、次ノ問題ハ何カト申シマスレバ、平時ニ於キマシテ軍事外交ニ付テ陸海軍大臣、外務大臣ガ新聞ノ記事ヲ禁止制限スル權利ヲ有シテ居ル是ガ果シテ必要デアルカドウカ、而シテ軍機ノ秘密ヲ保護スル法律ハ、別ニ在ル、軍機保護法ト云フ法律ガ在ルノデアル、即チ軍機ノ秘密ヲ漏洩シ、軍機ノ秘密ヲ公ニ示シタ時分ニ於テハ嚴重ナル刑罰ヲ以テ制裁シテ居ル、故ニ軍事ノ秘密ニナラナイモノヲ陸海軍大臣ガ平時ニ於テ新聞紙ヲ制限禁止スルト云フコトハ、是ハ矢張言論ノ自由ヲ尊重スル上ニ於テ、頗ル遺憾ニ感スル條文デアルト思フノデアル、斯ウ云フ必要ハ無イ、軍事ノ秘密ニナレバ軍機保護法ガ之ニ制裁ヲ加ヘ、又他ノ法律ヲ以テ之ヲ所罰スルコトガ出來ルノデアル、其以外ノモノヲ立憲法治國ニ於テ、陸海軍大臣ニ軍事ノ秘密ニ涉ラサル新聞紙ヲ制限禁止スル所ノ權利ヲ持タセルコトハ、却テ私ハ立憲政治ノ主義ニ反スルモノト論斷スルノデアル、外交上ノ問題——外交上ノ問題モ、秘密ハ當局者ガ漏サナケレバ新聞ニ載ル譯ガナイ、又今日ハ外交ハ公ニセヨ、外交ハ公開セヨト云フ論ガアル、新聞紙ガ外交ヲ論ズルト云フコトハ、國民外交ノ實ヲ舉ゲルノデアル外國ニ於テハ講和問題等モ、當局者ガ輿論ヲ喚起シ、新聞紙ガ輿論ヲ喚起シ、而シテ國論ヲ統一シテ外ニ向フカラ、其主張ガ強イノデアル其主張ガ貫徹スルノデアル、故ニ日本ノ外交ニ於テ、外務大臣ガ新聞紙ノ制限禁止ヲ爲サズ、之ヲ開放シテモ差支ナイ、新聞紙ガ責任ヲ重ンジ、全國ノ輿論ヲ喚起シ、國論ヲ統一シテ政府ノ後援ヲ爲スガ如キ態度ヲ以テ、外交問題ヲ解決スルト云フコトニシタイノデアリマス(拍手起ル)併シ戰時非常事變ノ場合ハ此限ニ在ラズ、戰時若クハ非常事變ニ於テ、陸海軍大臣及外務大臣ガ、軍事外交ニ向ッテ、新聞紙ニ對シテ禁止制限ノ權利ヲ有シテ居ルト云フコトハ私モ認メル、併シ戰時非常事變ノ場合ハ、戰時

非常立法アリマスカラ、平時ノ新聞紙法ニ規定スル必要ハ無イ、戰時非常事變ノ場合ハ、天皇ノ大權施行モ妨ゲナイ、戒嚴令モ發布スルノデアル、故ニ言論ノ自由ト云フモノハ、或ル場合ニ於テハ、全ク蹂躪サレテ居ルト云フコトハ、我國ノ新聞紙ガ覺悟シナレバナラス、戰時非常事變ノ場合ニ此制限禁止ガアルノデアルカラ、平時ノ場合ニ於テ軍事ノ秘密ニ涉ラザル事項ニ就テハ、陸海軍大臣及外務大臣ガ、新聞紙ノ制限禁止ヲスルト云フコトハ、絕對ニ新聞紙法ヨリ削除シテ貫ヒタイト私ハ考ヘルノデアリマス、私ハ先程申シタヤウニ、安寧秩序ヲ紊亂スル文字ヲ削除シテモ餘リ妨ハナイガ、私ノ希望スル六項ノ制限、其以外ノ制限ハ、政府ガ必要ガアレバ、掲ゲテモ差支ナイ、今マデノヤウナ官僚政治其他ノ政府ニ於テハ、社會ノ安寧秩序ハ官僚政治ノ官吏ノミカスル事ト考ヘテ居ル、是ハ大變間違デアル、官吏モ安寧秩序ノ維持者デアルケレドモ、人民凡テガ安寧秩序ノ維持者デアルト私ハ考ヘル、新聞紙ノ如キハ無論ノ話、有識ノ士ガ新聞ヲ書クノデアリマス、安寧秩序ヲ維持スルコトハ、新聞紙ノ一大任務ナリト申シテモ差支ハナイノデアル、故ニ此安寧秩序ヲ紊亂スルト云フコトヲ削除シテモ之ヲ具體化シテ新聞紙ヲ制限禁止スル所ノ條項ヲ掲ゲテ居レバ、少シモ國家社會ニハ害ヲ爲サズト云フコトヲ論斷致スノデアル、諸君、其他ニ新聞紙ノ枝葉ナル改正ハアリマス、例ヘバ今日ノ新聞紙法ニ編輯人以外ニ實際ニ編輯ヲ擔當シタル者ヲ制裁スル規定ガアリマス、今日デハ必要デアリマス、併シ私ガ述べタルヤウニ、實際ノ編輯人——今日ノ新聞紙デ申セバ編輯長トカ、主筆トカ、社長トカ云フ者ガ、責任ヲ帶ビテ編輯人ニナレバ、ソレ以上實際ニ擔當シタル所ノ記者ヲ罰スル必要ガ無カラウト思ヒマス、私ノ議論ガ通レバ、責任ヲ帶ビタル紳士ガ編輯人ニナレバ、實際ニ編輯ヲ擔當シタル者ヲ處罰スル必要ハ無カラウト思ヒマス、其他論ズル事ハ餘程アリマスケレドモ、是ハ私ハ委員會ニ讓リマシテ、此新聞紙法ノ專制主義、官僚主義ヲ變更致シテ、新聞紙法ノ民主化ヲ請求シ、立憲化ヲ請求スルノデアリマス、政府ニ於テモ私ノ述べタル事ヲ容レラレマシテ、部分的ノ改正トセズシテ、根本的ノ改正案ヲ作り、藩閥政治、專制政治ノ時分ニアタル所ノ遺物タル文字ハ削除シテ、而シテ民主化シタル立憲化シタル所ノ新聞紙法ヲラシメ、根本的ニ我國ノ言論尊重ノ實ヲ舉ゲルト云フコトニ願ヒタイノデアリマス、又新聞紙ニ於キマシテモ、責任ヲ重ンジ、編輯人モ實際ニ局ニ當ル所ノ編輯人ヲ編輯人ニ致シマシテ、其責任ノ實ヲ明カニシテ、而シテ相借ニ共ニ社會ノ安寧秩序ヲ維持スル所ノ態度ヲ持テ貫ヒタイト云フコトガ私ノ希望デ

アリマス、本案ノ大要ノ説明ハ是デ止メテ壇ヲ降ルノデアリマス(拍手起ル)

○岩崎勳君 議長

○議長(大岡育造君) 岩崎勳君

○岩崎勳君 本案ハ議長指名ヲ以テ、特ニ二十八名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(大岡育造君) 御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(大岡育造君) 御異議ガ無ケレバ議長指名十八名ノ委員ニ付託スルコトニ決シマス——日程第五、狩野川改修ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、説明者小泉策太郎君

第五 狩野川改修ニ關スル建議案(岩崎勳君外一名提出)

狩野川改修ニ關スル建議

政府ハ速ニ相當ノ計畫ヲ立テ静岡縣下狩野川ノ改修ヲ爲サムコトヲ望ム

右建議ス

〔小泉策太郎君登壇〕

〔拍手起ル〕

○小泉策太郎君 建議案ノ趣意ヲ極メテ簡單ニ申上デマス、狩野川ハ天城山カラ沼津ノ海ヘ出ル川デアリマス、其水害ノ程度ガ年々激シクナリマシテ、此川ノ流域ニ屬シマス伊豆ノ田方郡、又駿河ノ駿東郡ノ約二十箇町村許リハ、其都度非常ナル被害ヲ受ケテ居リマス、此川ノ氾濫ノ程度ガ年々激シクナルト云フ原因、又沿岸町村民ノ被リマス損害ノ程度、其事實ヲ調査モ略、出來テ居リマスケレドモ、今ノ場合此處デ委シク申上ゲルノハ甚ダ御迷惑デアラウト思ヒマスカラ、是ハ委員會デ詳細ニ申上ゲルコトニ致シマシテ、結局此洪水ノ被害ヲ除クニハ、河川ヲ改修ヲシテ治水事業ヲ完成スルコト云フ以外ニ方法ハ無イノデアリマス、地方費トシテ全部此費用ヲ負擔スルコト云フコトハ、到底不可能ノ事デアリマス、國家トシテ此治水事業ノ經營ヲシテ、相當ノ調査ヲ爲シ、又速ニ實行シテ貫ヒタイト云フノガ、此建議案ノ趣意デアリマス、ドウゾ宜シク御賛成ヲ願ヒマス

○岩崎勳君 議長

○議長(大岡育造君) 岩崎勳君

○岩崎勳君 本案ハ議長指名ヲ以テ、九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(大岡育造君) 御異議ハアリマセンカ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(大岡育造君) 御異議無ケレバ議長指名九名ノ委員ニ付託スルコトニ決シマス——日程第六、農業政策ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、提出者赤間嘉之吉君

第六 農業政策ニ關スル建議案(赤間嘉之吉君提出)

農業政策ニ關スル建議

政府ハ各種ノ農業政策ヲ立テ之ヲ實行シツツアリト雖未タ充分ナラサルモノアリ或ハ更ニ計劃スヘキモノアリ故ニ左ノ政策ヲ立テ之ヲ實行セムコトヲ望ム

一 農業労働者増加ノ方法ヲ講スルコト

一 農具改良ノ方法ヲ講スルコト

一 農業上ノ發明者及篤志者ヲ推獎スルコト

一 肥料ノ廉價購入ノ方法ヲ講スルコト

一 牛馬耕ヲ獎勵シ農業用牛馬廉價購入ノ方法ヲ講スルコト

一 耕地ノ排水の整理ヲ更ニ大ニ獎勵スルコト

右建議ス

〔赤間嘉之吉君登壇〕

〔拍手起ル〕

○赤間嘉之吉君 歐洲戰爭ノ教訓ニ依リマシテ、我國ニモ幾多ノ新シイ問題ヲ生ジテ參リマシテ、其中ニ付キマシテ、食糧問題ハ昨年ノ議會以來、官民ノ間ニ隨分論議セラレマシタ重大ナ問題デゴザイマス、此食糧問題ヲ解決致シマスルニ付キマシテ、本期議會ニ於テ政府カラモ色々ナ提案ガゴザイマシテ、吾々モ之ニ對シテ協賛ヲ與ヘマシタガ、食糧問題ヲ根本的ニ解決致シマス所ノ要點ハ、第一ハ農業政策ヲ確定スルニ在ルト云フコトヲ私ハ信ジテ居リマス、農業政策ノ上ニ付キマシテハ、先程モ論議セラレマシタ開墾助成法、或ハ開墾會社トカ云フヤウナ事モ必要デゴザイマス、新タニ開墾ヲシ、埋立ヲシ、干拓ヲ致シマスルト同時ニ、從來既ニ開墾セラレテ居リ、耕作セラレテ居ル所ノ土地ノ利用ヲ増大スルコト云フコトハ、食糧問題ヲ解決致シマスルニ付キマシテ、最大急務デアルト私ハ信ジテ居リマス、從來開墾セラレテ居ル所ノ土地ノ利用ヲ増大スル第一ハ、耕地ノ排水の整理ヲスルノガ一番必要デアルト思フ、現ニ東京府近ヲ見マシテモ、郊外ニハ幾多ノ水田ガ今水ガ溜テ其儘ニナッテ居ル、冬ノ間ハ之ヲ耕作スルコトガ出來ナイコトニナッテ居ル、汽車ニ乗テ東海道線ヲ見マシテモ、鐵道沿線ニハ幾多ノ水田ガ冬ノ間ハザット遊ンデ居ルト云フヤウナ有様デアアル、隨テ農民ハ冬ノ間ニハ仕事ガ出來ナイ、夏ハ農民ハ農事ニ忙殺サル、ケレドモ、冬ノ間ハ遊ンデ居ルト云フヤウナ有様デアアル、東京ノ附近ノ如キ野菜ナンゾニ致

シマシテモ、隨分高價ノ物ヲ買テ居ル、其東京市外ノ周圍ノ方ニハ水田ガ多ク遊ンデ居ルト云フヤウナ有様デアル、斯ウ云フ土地ニ對シマシテハ、第一ニ耕地ノ排水ノ整理ヲスルト云フ事ガ最も必要デアルト思フ、從來政府ノ方デモ耕地ノ整理、排水ノ整理ト云フヤウナ事ハ色々獎勵モ致シマスルシ、之ニ對シテ補助金モ與ヘテ居ル、又耕地ノ整理ノ基本調査ヲスルニ付テモ、補助金ヲ與ヘテ居リマスルガ、マダ甚ダ不十分デアリ、極ク僅カナルノデアリ、昨年ノ議會デアリマシタカ、一昨年ノ臨時議會デアリタカ、土地ノ利用ニ關スル經費ト云フモノヲ、初メテ議會ニ政府カラ提案ヲ致シマシデ、吾々ハ協賛ヲ與ヘタノデアリマス、是ハ新タニ開墾スベキ土地ノ整理ヲスベキ土地、或ハ干拓スベキ土地ヲ政府ノ方デ調査ヲ致シマシテ、ソレニ對シテ十分ナル設計ヲ立テ、收支豫算マデモ政府ノ方デ致シテ、サウシテ土地ノ所有者、或ハ地方ノ人ニ開墾立干拓ヲ勸誘スルト云フコトニナッテ居ル、新タニ土地ヲ拓クコトモ必要デアルケレドモ、今申上ゲルヤウニ現在開墾サレテ居ル土地ガ遊ンデ居ル、其利用ヲ増大スルニ付テハ、政府ハ僅カニ基本調査ヲスルニ付テ、補助金ヲ與ヘルト云フコトニ止マッテ居ル、新タニ開墾スルニ付テ政府ガ多額ノ經費ヲ投ジ、其調査ヲシ、設計ヲシ、收支豫算ヲ出シテ居ルナラバ、既ニ開墾サレテ居ル土地ニ對シテモ、排水ノ整理ノ基本調査ヲ政府ノ方デヤ、便宜シト思フ、サウシテ土地ノ所有者ニ向テ排水ノ整理ヲ勸誘スルコトニナレバ、此事業ハ從來ヨリモ一層長足ノ進歩ヲシ發達スルコトデアラウ考ヘマス、從來政府ノ遺方ヲ見マスルト、農業者或ハ農業ニ對スル政府ノ遺方ハドウモ甚ダ不満足ノ點ガアル、明治政府ノ初メニ於キマシテ地租改正ヲ斷行シタ時ニハ、其經費ノ大部分ハ民地トシテ土地ノ所有者ガ負擔シテ居ル、又二十一年ノ頃地租輕減ノ目的ヲ以テ地價修正ヲシタ時ニモ、其大部分ノ經費ハ土地ノ所有者ガ負擔シテ居ル、當然政府ガ負擔シナケレバナラヌ經費ノ大部分ヲ、土地ノ所有者ガ負擔シテ居ルノデアリマス、今耕地ノ排水ノ整理ヲスルニ付テモ、政府ハ僅カノ補助ヲシテ大部分ハ土地ノ所有者ニ設計シ調査サセルコトニナッテ居ル、甚ダ私ハ斯ウ云フ點ハ遺憾デアルト思ヒマス、願クハ政府ノ方ガ排水ノ整理ノ基本調査ヲ致シマシテ、土地ノ所有者ニ大ニ勸誘スルガ最も必要デアラウト考ヘマス、次ニ耕地ノ面積ヲ開墾シ排水ノ整理ヲ致シマシテ、土地ノ利用ヲ増大スルニ付テハ直接必要ヲ感スルハ農業労働者ノ缺乏デアアル段々鑛山或ハ製造工業等ガ發達シマスルシ都市ガ發展スルニ付テ、農民ガ都會ノ地ニ移住シ、或ハ轉業スルコトニナッテ、農業労働者ガ少クナル、今衆議院ヲ通過シタ開墾助成法、或ハ開墾會社等ガ出來マシテモ、農

業労働者ガ段々減少スルヤウデハ此目的ヲ完成スルコトハ出來ナイ、隨テ農業労働者ノ増加ト云フコトハ、政府ノ方デモ餘程考ヘナケレバナラヌ問題デアラウト思フ、如何ニシテ農業労働者ヲ増加スルカト申シマス、私ノ考デハ支那ノ労働者、支那苦力ヲ日本ニ入レルコトヲ政府ノ方デ考ヘテ賞ヒタイ、支那トハ確カ條約ノ關係モアルト思ヒマスカラ、單リ農商務省ダケノ問題デナク、外務省、農商務省、内務省アタリト共ニ、此問題ニ向テ何トカ致シテ支那労働者ヲ日本ニ入レル、或ハ鑛山ナリ或ハ製造工業ナリ、サウ云フ方面ニ支那労働者ヲ入レルコトニナルト、消極的ニハ農業労働者ノ去ルノヨリヲ以テ引留メルコトガ出來ルト云フコトニナッテ参リマス、次ニハ農具ノ改良、從來我國デ用井テ居ル農具ハ、各地方各様ノ物ヲ用キテ居ル、此農具ノ改良ニ付テハ、從來農業試驗所或ハ農學校トカ、農科大學トカ云フヤウナ各種ノ學校モゴザイマスケレドモ、此農具試驗場トカ或ハ各學校ニ於キマシテ、農具ノ改良ニ向テハ餘リ力ヲ用キテ居ナイノデアリマスガ、是ハ勞力ヲ節約シ、労働者ノ減少スル半面ニ於テハ、農具ノ改良ヲ致シマシテ、労働者ノ減少スル補フ付ケルト云フコトガ、最も必要デアラウト思フノデアリマス、願クハ政府ノ方ニ於キマシテ、此農具ノ研究所ヲ置キマスルコトカ、或ハ學校トカ、農具試驗所ニ於キマシテ、農具改良ノ事ニ今少シ研究ヲシテ戴キタイト思フノデアリマス、次ニハ労働節約ノ一端ヲ致シマシテ、牛馬耕ノ獎勵デアリマス、此牛馬耕ノ獎勵ニ付テ全國ヲ見渡シマスル、マダ田畑ヲ耕スニ人ノ手ヤテテ居ル所ガ多イノデアリ、是ハ牛馬耕ヲ用キルコトニナルト、人ノ勞力ヲ節約シ工程モ餘提進捗スルト考ヘマス、現在我國ニ於テハ牛馬ヲ產出スルコト甚ダ少ナク、對岸ノ支那ニハ陝西省四川省河南省等ニ澤山牛馬ヲ產出シ、又有名ナル山東牛、是等ヲ輸入スルト云フコト餘程我國ノ牛馬ノ缺乏ヲ補フコトガ出來ル、サウ云フコトニ致シマシテ牛馬ノ不足ヲ補ヒ、一面ニ於テ牛馬耕ヲ獎勵スルト云フコトハ、最も農事ノ改良ヲ圖リ勞力ヲ節約スル上ニ於テ必要デアルト考ヘマス、次ハ肥料ノ問題、我國ノ肥料ハ段々改良サレテ参リマスケレドモ、マダ金肥所謂購買スル所ノ肥料ハ價格ガ高イ、肥料會社ハ隨分多額ノ利益ヲ得テ居リマスガ、農民ハ此高イ肥料ヲ農業ニ用キナケレバナラヌ、何トカ致シマシテ此肥料ノ廉價購買ノ方法ヲ政府ノ方ニ於テ考ヘテ賞ヒタイ、次ニハ農業ノ進歩發達ヲ圖ル上ニ於テ、農業上ノ發明者及ビ篤志者ヲ獎勵スルコトガ最も必要デアルト思フ、軍事上ノ關係或ハ軍器ノ發明改良ヲ致シタト云フコトニ付テハ、直チニ勳章ヲ與ヘル途ガアルケレドモ、農業上ノ發明者ニ向テハ、サウ云フ途ガ未ダ當テ開カレテ居

ルコトヲ聞キマセヌ、是ハ甚ダ遺憾ニ思フ、今日ノヤウニ食糧問題ノ解決ニ官民共ニ力ヲ注グト云フヤウナ時ニ方デハ、一層此農業上ノ發明者篤志者等ニ對シテ、獎勵スル途ヲ開イテ賞ヒタイト思ヒマス、或ハ稻種ノ鹽水撰ノ發明トカ、或ハ權田式ノ麥ヲドウシタトカ、近來私ノ地方アタリデハ一地方ノ役場ノ農業技手ガ稻作ノ改良ニ付テ非常ナ發明ヲシテ、麥ノ權田式ヨリ以上ノ發明ヲシタ者ガアリマス、サウ云フヤウナ者ニ對シテ未ダ當テ之ヲ推薦スル途ガ開カレテ居ラヌハ遺憾ト思フ、或ハ藍綬褒章綠綬褒章トカ、褒章ヲ與ヘル途ハアルケレドモ、未ダ是等ノ者ニ向テ敍勳セラレタコトハ聞キマセヌ、願クハ斯ウ云フ者ニ向テモ軍事上ノ發明或ハ軍器ノ改良シタ人ト同ジヤウニ、優遇ノ途ヲ開クトカ、或ハ其他ニ推薦ノ途ヲ開クコトニ致シマシタナラバ、農業ノ改良進歩ノ上ニ餘程ノ效果ガアルト私ハ信ジテ疑ヒマセヌ、デ以上申上ゲマシタ政策ト相俟テ、政府ガ今期議會ニ提案サレマシタ開墾助成法ナリ、開墾會社等ノ事業ト共ニ保護シマシタナラバ、食糧問題ノ解決ハ決シテ難事デナイト信ジマス、敢テ本建議案ヲ提出シタ所以デアリマス

○岩崎勳君 本案ハ日程第三ノ委員ニ、併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(大岡育造君) 御異議無シト認メマス、仍テ岩崎君勳議ノ如ク決シマス、日程第七 陸軍下士卒優遇ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス——提出者高田耘平君

第七 陸軍下士卒優遇ニ關スル建議案(高田耘平君提出)

陸軍下士卒優遇ニ關スル建議

陸軍下士卒ノ給與甚タ菲薄ニシテ現役ノ兵卒ニ對シテ父兄等ヨリ送金シ、アルハ目下一般ノ狀況ナリ尙下士ノ生活モ極メテ困難ナリ依テ政府ハ成ルヘク急速ニ下士卒ノ給與ヲ改善スルノ方法ヲ採ラレムコトヲ望ム

右建議ス

〔高田耘平君登壇〕

○高田耘平君 大分御倦怠ノ所デゴザイマスカラ、長ク申上ゲル積リデアリマシタケレドモ、極メテ大綱ダケヲ申上ゲマス、目的ハ陸軍ノ下士卒ノ給與、即チ給料食糧トモ甚ダ菲薄デアリカラ、之ヲモウ少シ改善スル必要ガアル、斯ウ云フ事デゴザイマス、ソレダケデハ餘リ簡單デゴザイマスカラ、其理由ヲ簡單ニ申上ゲマス、即チ現在ノ陸軍ノ下士卒ノ給與ガ果シテ十分デアアルヤ否ヤト云フコトヲ見ルト、之ヲ各兵卒ノ家庭ガ毎月幾分宛カ其父兄ヨリ兵卒ニ送金スルノ狀

況ヲ見テモ、其ノ不足スルコトハ明カデアル、又唯、送金スルカラシメテ不足アルコトハ徹底シマセヌガ、實際ニ陸軍省ノ調ベラレタモノヲ見マシテモ、確ニ不足ノ狀況ニ在ル、委シイ數字ニナリマスカラハ略シマスガ、現在不足アルコトハ第一申上ゲマス、ソレカラ第二ニハ、其兵卒ノ多クドウ云フ家庭カラ出テ居ルカト云フ事、即チ兵卒ノ多ク、財産程度ハドウ云フモノデアルカト云フ事モ、是モ一ノ理由ニナラウト思フ、是ハ私ガ陸軍省デ調べテ貰タモノデ、詰リ第一師團、第十四師團、第十五師團ノ此三箇師團ノ兵ニ就キマシテ、大正六年ノ兵卒ノ總員ニ就キマシテ、ドウ云フ風ナ財産状態ニナッテ居ルカト云フコトヲ調べテ貰ヒマシタガ、千分比例ニ致シマシタ、直接國稅百圓以上ヲ納ムル家庭ノ者ガ、千分比例デ十五人ゴザイマス、ソレカラ直接國稅百圓未滿二十圓以上ノ納稅者ノ家庭ノ者ガ百三十人デゴザイマス、ソレカラ直接國稅二十圓未滿十圓納稅者ノ家庭ノ者ガ五百三十人デアリマス、直接國稅不納者ノ家庭ノ者ガ三百二十五人、是ハ第一師團、第十四師團、第十五師團ノ三箇師團ニ就キマシテ、陸軍ノ當局ノ手ニ依ッテ調べテ貰ヒマシタ、其書類モゴザイマス、此書類ハ必ズ全般ニ涉ルトハ申シマセヌケレドモ、尠ナクトモ之ヲ以テ我帝國ノ陸軍ノ兵卒ノ財産状態ヲ窺ヒ知ルコトモ、大體ニ於テ出來ヤウト思ヒマス、之ヲ見マスルト中産階級以下ニ屬スル、直接國稅二十圓以下ノ者ト、直接國稅不納者トヲ合セテ、全體千人ニ付八百五十五人ト云フコトニナッテ居リマス、是ハ餘程看過スベカラザルコトデアラウト私ハ思フノデアリマス、即チ此等ノ中産階級以下ガ國家最大ノ兵役ノ義務ヲ負ウテ居テ、其上ニ少ナカラズ二三年間年々小遣ノ足リナイモノヲ受ケルト云フ現狀ハ、見ヤウニ依ッテハ餘程大問題ト謂フコトガ出來ルト、信ジマス、是ガ第二ノ理由、第三ノ理由ハ是モ一寸數字ニナリマス、徵兵令施行以來今日マデノ陸軍ノ兵卒ノ給料ヲ比較シテ見ルトドウナッテ居ルカ、委シイコトハ略シマスガ、ザット申上ゲマスルト、明治四年ニ一等卒ト云フモノハ一箇月二圓デアリマス、即チ一日七錢デアッタ、ソレカラ明治三十二年頃ハ幾ラデアアルカト云フト、一等卒二等卒ヲ通ジテ一日四錢デアアル、ソレガ明治四十三年ヨリ一日五錢二厘ニナッテ、サウシテ大正七年四月ヨリ二割五分ヲ増シマシテ、九月ヨリ四割増トナリ、現在一、二等卒ガ一日七錢二厘ト云フコトニナッテ居リマス、斯ウ云フヤウナ風デゴザイマシテ、徵兵令施行當時ハ、非常ニ今日ヨリ待遇ガ好カッタデアル、此歴史カラ見マシテ、私共ハズト古キ以前ノ兵卒ノ手當ト其當時ノ物價ト、今日ノ手當ト今日ノ物價トヲ對照シテ見マスルト、不足デアルト云フコトハ歴史上ヨリモ明ニ證明シ得ルト思フノデ

アリマス、第四ハ陸軍ト海軍トノ比較問題デゴザイマス、之ヲ食糧ノ方面ト給料ノ方面ヨリ觀察シマスルト、陸軍ノ方ノ上等兵ト云フモノガ定額六錢五厘デ、之ニ四割増シマシテ九錢一厘トナッテ居リマス、ソコデ海軍ノ一等卒ハドウデアアルカト云フト、一日ノ定額ガ二十六錢デ、是ニ四割増シテ三十六錢トナッテ居リマス、サウスルト陸軍ノ上等兵ハ海軍ノ一等卒ト比較シテ、一日ノ給料ガ陸軍ヨリ海軍ノ方ガ四倍デアリマス、是ハ總テノ兵卒ニ通ジテ其通りデゴザイマス、詳シイコトハ略シマス、ソレカラ又陸軍ノ兵卒ト海軍ノ兵卒トノ食糧ガドウデアアルカト云フト、米麥等ニハ大差ハゴザイマセヌガ、野菜類ニモ大差ハゴザイマセヌ、唯、肉類ニナルト非常ニ差ガアル、海軍ノ方ノ食糧ノ表ヲ見マスルト、一日ノ食糧ガ牛肉六十匁、魚肉四十匁、合計百匁トナッテ居リマス、所ガ是ガ第十四師團ニ就キマシテ肉類ノ調ベタ物ヲ見マスルト、一週間ニ九十匁デアリマス、魚肉、豚肉、牛肉ヲ通ジテ九十匁、是ガ一週間分デアリマス、所ガ海軍ニ於テハ魚肉牛肉ヲ通ジテ一日必ズ百匁ノ肉類ヲ食ハセテ居リマス、斯ウ云フコトニナッテ居リマシテ、甚ダ權衡ヲ得ナイノデアリマス、若シ今日ノ儘デ往キマスルト、海軍ニ志願スル人ハ悦ビマス、陸軍ニ居ル人ハ甚シク不平ヲ持ツヤウニナルト思フ、此意味ヨリシテモ、ドウシテモ陸軍ノ給與ヲモウ少シ高メル必要ガアルト思ヒマス、以上四點ガドウシテモ陸軍ノ下士卒ノ給與ヲ更ニ改善シナケレバナラヌ理由トナルノデアリマス、是ハ餘程見ヤウニ依ッテハ大問題ト思ヒマス、是非一ツ諸君ノ御賛成ヲ請ヒタイ、積リデゴザイマス、何レ詳細ノコトハ委員會デ申シマス

○岩崎勳君 本案ハ官吏恩給法、及ビ之ニ關聯スル諸規定ノ改正ニ關スル建議案ノ委員會ニ、併セテ付託セラレシコトヲ望ミマス

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長〔大岡育造君〕 御異議ガナケレバ動議ノ如ク決シマシタ、日程第八、北海道拓殖完成ニ關スル建議案——寺田省歸君

第八 北海道拓殖完成ニ關スル建議案(寺田省歸君外二名提出)

北海道拓殖完成ニ關スル建議

現今北海道拓殖事業計畫ノ財源タル自然増收ハ拓殖完成ニ至ル迄本道經營ノ資源ニ供スルハ北海道拓殖計畫案ノ精神ナリ故ニ左記事項ニ對シ更ニ時代ニ適應スル計畫ヲ樹立セムコトヲ望ム

一 拓殖鐵道敷設

一 港灣及漁港ノ修築

一 治水事業

一 土地改良事業

一 其ノ他必要ナル事業

右建議ス

〔寺田省歸君登壇〕

○寺田省歸君 時間ガ切迫致シマシタカラ、極ク簡單ニ說明致シマス、北海道拓殖事業計畫ノ財源タル自然増收ハ拓殖完成ニ至ル迄本道經營ノ資源ニ供スルハ明治四十四年ニ定メラレタル拓殖計畫ノ精神デアリマス、仍云左記事項ニ對シ更ニ時代ニ適應スル計畫ヲ樹立センコトヲ望ム、下云フノガ、此建議案ノ精神デアリマス、即チ拓殖鐵道ノ敷設、港灣及漁港ノ修築、治水事業、土地改良事業、其他必要ナル事業デアリマス理由ヲ聊カ說明致シマス、北海道ハ明治二年拓殖長官東久世通禧卿ガ 先帝陛下ノ優渥ナル詔勅ヲ奉戴シマシテ、開拓ニ從事シテ以來、既ニ五十餘年ヲ經過致シマス、其間官民共ニ銳意熱心開拓ニ從事致シマシタ結果、今ヤ人口二百有餘萬、開墾地七十餘萬町歩、生産高三億萬圓ニ上リマシテ、其進歩稍、見ルベキモノガアリマス、然レドモ廣袤六千方里ニ及ル北海道ノ大ニ比シマスレバ、未ダ開墾ノ工程ハ其半ニモ達シナイノデアリマス、海ニ於テハ、沿海漁業ハ稍、衰頹ノ傾ガアリマス、遠洋漁業ニ至リマシテハ未ダ一指ヲモ染メズ、無盡ノ魚族ニ富ミ、此魚族ヲシテ空シク北海ニ游泳セシムル有様デアリマス、又山ニ在リマシテハ、千石不伐ノ森林ハ廣大ノ地區ニ亘リマシテ、晝猶暗キ所ガアリマス、又各種ノ礦物ハ無限ノ鑛量ヲ包藏シテ、事業家ヲ待ッテ居ル有様デゴザイマス、更ニ原野ヲ見マスレバ、尙ホ吾々ノ見ル所デハ、百萬町歩ノ開墾適地ガ存シテ居ルデアリマス、刻下朝野ノ最モ苦心ヲ爲シツ、アル米穀ニ於テモ、今後殆ド五六百萬石ヲ產出シ得ベキ餘他ガ十分アルノデアリマス、工業ニ至ッテハ各所ニ豐富ノ原料ヲ產スルヲ以テ、多大ノ發展ヲ見ルコトガ出來マス、其外畜産ニ、養蠶ニ、數ヘ來レバ日モ亦足ラヌノデアリマス、故ニ北海道ノ開拓ノ仕事ハ、寧ろ是カラト云ウテモ宜イノデアリマス、故ニ若シ北海道拓殖完成シ、産業大ニ發達スルノ時ニハ、人口ニ於テ七八百萬万人、生産總高十億萬圓ニ上ルコトハ、敢テ難事デナイト思ヒマス、故ニ此點カラ申シマスレバ、北海道ハ一ハ米穀ノ調節ヲ助ケ、一ハ内地ニ於テ年々増加スル過剩ノ人民ヲ移入レマシテ、彼等ヲシテ土著永住ノ樂土ヲ得セシムル使命ヲ有シテ居ルノデアリマス、政府ハ明治四十二年拓殖事業計畫ヲ立テ、以來時運ノ形勢ニ鑑ミマシテ、豫定ノ計畫ニ多少ノ改正追加ヲ爲シ、是ガ遂行ニ努メツ、アリマス、拓殖ノ完成ヲ期セント欲セバ、未ダ不備不足ト謂ハナケレバナリマセ

